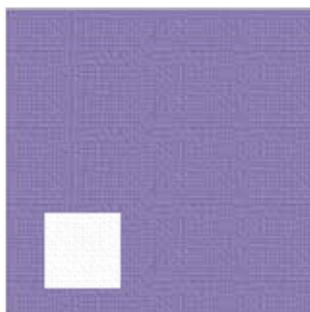
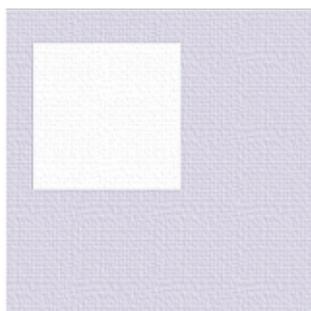
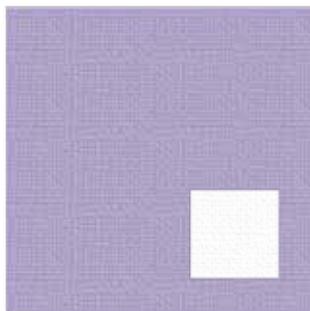


# 私のまちの 福祉活動カタログ

vol. 12



ふれあいネットワーク

# 私のまちの 福祉活動カタログ

vol. 12



## 発行にあたって

現在、我が国においては少子高齢化の進展や社会経済体制の変化、家族構造の変動などにより地域社会や家族のつながりが希薄化してきており、地域の中では社会的孤立や孤独死、ホームレスやひきこもり、子育て・介護への不安、自死や虐待などの様々な社会的課題が浮き彫りとなっています。さらには2011年3月11日に発生した東日本大震災をはじめとする地震、台風、水害、竜巻、土砂崩れなどの様々な災害が日本各地を襲っています。

誰もが住み慣れた地域でその人らしく暮らしていくためには、こうした様々な問題に立ち向かっていかなければなりません。そのためには、個人の備えや行政による施策と併せて、地域住民同士の助け合いが重要となります。

平成27年4月より施行される「生活困窮者自立支援法」や、同月に改正が行われる「介護保険法」においても、専門家による支援だけでなく、地域に根差した住民相互の支え合い活動が重要だと言われています。近隣に住んでいるからこそ見えてくる課題をとらえ、住民一人ひとりが協力し合いながら解決に向けて活動していくことにより、「地域の福祉力」が高まり、誰もが地域社会の一員として共生することができる地域の基盤が醸成されていくと考えます。

本会が作成している「私のまちの福祉活動カタログ」は、千葉県における新たな地域社会づくりに向けての応援メッセージとして、平成12年度から継続して発行している小地域福祉活動の事例集です。12集目となる本カタログでは、高齢者や子育て世代を対象としたサロン活動、異世代交流活動、防災活動など、15地域の様々な取り組みを紹介しています。

また、巻末には、地域における災害時要援護者への対応をテーマとして本会と千葉県男女共同参画センターの共催により開催した「第40回（平成26年度）県民福祉セミナー」の概要を掲載しました。併せて、千葉県が地域福祉支援計画に位置付け、設置を推進している「地域づくりのあり方・取り組み方を考えていく組織（話し合いの場・協働の場）」である「地域福祉フォーラム」の設置状況についても掲載しております。

本カタログが、地域福祉活動を実践する方々の一助となれば幸いです。

最後に、本カタログの発行に際し、快く取材にご協力いただきました各団体の皆様に対し心よりお礼を申し上げます。

平成27年3月

社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

## INDEX

①	【野田市】 清水地区社会福祉協議会 参加者だけでなく自分たちも楽しむ その活動内容は無限大	2
②	【我孫子市】 布佐地区社会福祉協議会 赤ちゃんもボランティアができる!? “助け合い・支え合う地域の輪”を実現	4
③	【浦安市】 浦安市社会福祉協議会西2支部 健康・子育て・地域/異世代交流が活動の三本柱です	6
④	【四街道市】 千代田中学校地区社会福祉協議会、四街道北中学校地区社会福祉協議会 住みよいまちづくりの実現へ向けて福祉教育・地域福祉活動を地域に広げる	8
⑤	【印西市】 印西市社会福祉協議会ニュータウン中央北支部 つながりを大切に。その積み重ねで孤独を生まない地域を目指す	10
⑥	【香取市】 新宿地区社会福祉協議会 高齢者も子どもたちも“笑顔”になれる活動を!	12
⑦	【東庄町】 東庄町社会福祉協議会笹川支部 子どもたちとのふれあいを大切に 小学校と連携したきめ細かな福祉活動を実現	14
⑧	【匝瑳市】 豊栄地区社会福祉協議会、須賀地区社会福祉協議会 住民が安心して生き生きと暮らすために日頃の見守り・支え合いを築く	16
⑨	【芝山町】 菱田地区社会福祉協議会 子どもたちを主役とした福祉活動を展開中!	18
⑩	【一宮町】 東浪見地区社会福祉協議会、西部地区社会福祉協議会 助け合いのまちづくりをみんなで目指す	20
⑪	【睦沢町】 瑞沢地区社会福祉協議会 人との“話”と“和”と“輪” 3つの“わ”が地域を守る力になる	22
⑫	【勝浦市】 勝浦市ボランティア連絡協議会 同じ地域で暮らす仲間だから みんながつながり、笑い合える関係に	24
⑬	【いすみ市】 太東地区社会福祉協議会 人と人との「つながり」や「ふれあい」それが活動の要となる	26
⑭	【館山市】 館山市社会福祉協議会長須賀支部 “ここでずっと暮らしたい”誰もがそう思えるまちづくりを目指して	28
⑮	【富津市】 吉野地区社会福祉協議会 話し合いから生まれた地域に根ざした取り組み	30
	第40回(平成26年度)県民福祉セミナー(千葉県社会福祉協議会と千葉県男女共同参画センターとの連携セミナー) 災害にも強い地域をつくろう ～男女共同参画の視点から見た災害時要援護者への対応～	32
	地域社会づくりの基盤(プラットフォーム)としての 基本・小域地域福祉フォーラムの設置状況	37
	市町村社会福祉協議会一覧	42



## 参加者だけでなく自分たちも楽しむ その活動内容は無限大

さくらんぼの会

野田市にある清水地区社会福祉協議会（以下、清水地区社協）は、日々エネルギーに活動を推進しています。活動のポイントは、常に新しい試みを模索し続けること。それによって、参加者だけでなく地区社協のメンバー自身も楽しみながら活動が続けることができるといいます。今回は、そんな清水地区社協の取り組みを紹介します。

### 地域に根ざした 確かな取り組みを展開中

清水地区社協が発足したのは平成10年。その前身となった組織が、昭和63年発足の清水小域福祉圏地域ぐるみ福祉推進委員会です。野田市社協と協働しながら、高齢者が認知症や要介護状態にならないよう、その予防を目標として活動してきました。

清水地区社協は、清水会(自治会連合

会)、各自治会の福祉担当者、民生委員・児童委員、清水ボランティアグループ“あしたば”のメンバーなど、地域で活動するあらゆる人々が集まって構成されています。その活動内容も非常に豊富。メインは①さくらんぼの会、②しみず遊友(ゆうゆう)サロン、③高齢者防災訓練などですが、他にも、電話で一人暮らしの高齢者の話し相手となる「お元氣コール」、高齢者向けの暑中見舞いや年賀状の送付、保育園を訪問しての交流、幼児や小学校低学年を対象とした「子ども映画館」などを実施しています。これらの活動を心待ちにしている参加者は多く、平成25年度の全活動をまとめた参加者数は、なんと延べ1,500人を超えるとか。10年前に比べるとほぼ倍増していることで、地区社協メンバーの尽力によって地域に根ざした確かな取り組みが展開されていることが伺えます。



左から、清水地区社協の会計 菅原桂子さん、顧問 秋山彦市さん、会長 戸辺敦子さん、事務局長 草野富美子さん

### アンテナを張って 新しい試みを

さくらんぼの会は、清水地区社協がまだ清水小域福祉圏地域ぐるみ福祉推進委員会として活動していた昭和63年度より実施しており、平成26年12月で54回目を迎えました。対象者は65歳以上の方で、毎年6月・12月の年2回開催。毎回100人以上が参加する大人気な会です。活動開始のきっかけは、老人クラブより「家に閉じこもりがちな高齢者に、どうか外に出てもらえる方法はないだろうか」と相談が持ちかけられたことだそうです。

この会の特徴は、毎回趣向を凝らした出し物が行われることです。午前中は楽器に合わせて歌を披露する発表会を行ったり、体操やフォークダンスを行ったり。時には悪徳商法や防災の講話を聞いて勉強することもあります。昼食をはさみ、午後には缶ボーリングや新聞紙を使ったファッションショー



さくらんぼの会。缶ボーリング

などのレクリエーションを行い、大いに盛り上がるとのこと。「毎回同じことをしていれば楽しんでもいいですが、それでは自分たちも面白くない。日頃からアンテナを張って常に目新しいものを探しています。アイデアを思いついて提案すると、地区社協のメンバーも快く賛成して協力してくれるので、より良いと思える活動が続けられています」と、清水地区社協会長の戸辺敦子さん。「一人でやるのではなく、みんなで楽しみ、そして何か一つは学びを得られる活動にすること」——そういった意識を大切にしています。

### 自由に参加できる 楽しいふれあいの場

平成8年から始まった「しみず遊友サロン」は、正光館で毎月第4土曜日、青年館で第4水曜日の午後1時に開かれます。65歳以上なら誰でも参加でき、時間内であればいつでも自由に来ることができます。会場では使用済みの切手を整

理したり、ギター先生の伴奏に合わせて合唱したり、お手玉やけん玉、かるたなどの昔遊びを行ったり。さらには健康体操、お茶会、生け花、お饅頭づくりなど、活動内容は尽きません。

これらの様々な活動を通じて参加者同士の仲も深まり、個人的なつながりにも発展しているとのこと。一緒に食事をしたり、入院したと聞いたらお見舞いに行ったりしている

そうです。

現在の課題は、会場が遠くて参加しにくい方がいることです。そのため、会場を2か所から3か所に増やすことも検討しています。

### 防犯・防災のために 定期的に意識を高めていく

清水地区社協では、防犯・防災対策も重要な活動の一つと考えています。各自治会でも防災訓練等は実施されていますが、高齢者はなかなか参加しにくいという課題がありました。そこで、地区社協としても平成8年から高齢者向けの防災訓練を開始したのです。

活動開始当初は消防署の協力により消火器訓練、応急処置の仕方、バケツリレー、AED訓練等の具体的な防災訓練を行ってきましたが、高齢者を狙った悪徳商法や詐欺が世間で問題になり始めたことをきっかけに、現在は消防署や警察署の職員からの講話を中心としています。もちろん防犯の講話のみにシフトしたわけではなく、3.11以降



しみず遊友サロンで昔遊び

は特に、地震発生時の対処法などについても学んで意識を高めています。

講話は年1回、「さくらんぼの会」や「しみず遊友サロン」の中で実施しています。「さくらんぼの会」50回記念の際には、防災対策に取り組む地元企業より講師を招いて防災講話をお願いしました。

また、清水地区社協では小学校の登下校時の見守り活動も行っており、地域の防犯にも貢献しています。

いざという事態に対応するためには、平日頃から防災への意識を住民がしっかりと持つことが大切だと考え、メンバーは日々活動を続けています。



防犯・防災対策で消防署の防災訓練

## 野田市社会福祉協議会

### 職員同士連携しながら 地区社協活動をサポート

野田市社会福祉協議会（以下、野田市社協）の職員は、22か所ある地区社協を、一人につき約4地区ずつ担当しています。活動内容については基本的に各地区社協の自主性を尊重しているため、市社協の主な役割は後方支援です。サロンの内容の相談に乗ったり、社会資源を探したり、行政とのパイプ役を担ったりと、地域の活動が円滑に進むようにサポートしているのです。

職員同士の情報交換も密に行ってい

ます。例えば、市内にある東京理科大学のジャグリングやマジックのサークルにボランティアとして来てもらい、好評を得た地区があったので、他地区の担当者とも情報共有しました。

より良い地区社協支援を行うため、こういった情報交換は欠かせないと野田市社協の矢口純一さんは考えます。「経験の浅い職員も多いですし、積極的に活動に参加して経験を積みながら、更なる活動を支援していきたいですね」



野田市社協 矢口純一さん

とのこと。

また、男性や若い方にももっと地区社協活動に参加してもらうため、まずは活動を見てもらえるよう、今後はPR活動にも力を入れていく必要を感じているとのこと。

※野田市人口：156,124人 65歳以上人口：40,002人 高齢化率：25.6% (平成26年4月現在)



## 赤ちゃんもボランティアができる!? “助け合い・支え合う地域の輪”を実現

高校生の子育てサロン

我孫子市には6つの地区社協があります。その一つ、布佐地区社会福祉協議会(以下、布佐地区社協)では、「助け合い・支え合う地域の輪～一人ひとりが自分らしく生きるために～」を基本目標に掲げて、住民の気持ちを日々育てています。未来を担う子どもたちの応援団となり、高齢者や障がい者に寄り添い、子育て世代のよい理解者に——。そんな布佐地区社協の取り組みの数々取材しました。

### 何かあったら 地区社協に相談を

布佐地区社協は平成11年に発足。委員は自治会、福祉施設、PTA、校長会、ボランティアグループ、民生委員・児童委員、青少年相談員、布佐商興会などから集まって構成されています。「社協に相談すれば解決の糸口が見つかる」と思ってもらえるように、様々な行事を仕掛けているという布佐地区社協。その活動内容は、高齢者を対象とした「ロコモティブシンドローム予防健康教室」や「健康マージャン教室」、障がい者を対象とした「手作りピザ・手作りうどん教室」、子育てサロン「すくすくほっとひろば」、そして年1回の「布佐地区社協まつり」など、非常にバラエティに富んでいます。

### 親子と遊びながら将来の準備 子どもの視点から親の視点へ

子育て中のママが一息つける場とし

て定着している「すくすくほっとひろば」(参加費無料)。布佐地区社協の事務局がある「近隣センターふさの風」を会場に、毎月第4木曜日の午前中に開催しています。対象は就園前の子どもとその家族。毎回10組ほどの親子が集まり、自由遊びやボランティアによる読み聞かせを楽しみながら親同士・子ども同士の交流の輪を広げます。

開催にあたって何よりも大切なのは、参加者の気持ちです。先日開催した「すくすくほっとひろば」では、アンケートで要望のあった簡単な手芸をプログラムに取り入れるなど、常に参加者の声に耳を傾けながら運営されています。

市内6地区の中で最初に子育てサロンを始めた布佐地区社協ですが、平成23年に我孫子市社会福祉協議会を通して、県立我孫子東高校から「家庭科の授業の一環として何かできないか」と



ボランティアによる紙芝居の読み聞かせ

相談が持ち込まれました。そして誕生したのが「高校生の子育てサロン」です。毎年3回、同校に親子を招いて高校2年生と楽しいふれあいの時間を過ごしています。

平成27年1月26日に開催されたサロンの参加者は、親子22組と2年生の1クラス37人。手遊び歌や絵本の読み聞かせなど、生徒たちがこの日のために練習してきた様々な遊びを楽しみます。はじめは恐々と子どもたちに接していた生徒たちも、元気にはしゃぐ子どもたちの笑顔に、いつしか表情



手作りピザ教室

がほぐれていきます。

一見「高校生の子育てボランティア」のようにも見えるこの取り組みですが、子どもたちの“ボランティア”によって子育ての苦労や喜び、親の気持ちなどを生徒に考えさせる——そんな意味合いも強いのです。実際に、子育て中のお母さんへのインタビュータイムでは、真剣なまなざしで質問をしている生徒たちの姿が見られました。

「自分は緊張して抱っこしているのに、子どもは眠っちゃって」とはにかむ男子生徒や、「赤ん坊ってこんなに重



健康マージャン教室

いんだ!」と目を丸くして驚き、笑う女子生徒——それぞれの生徒に、日常生活の中ではなかなか得られることのできない発見があったことでしょう。

もちろん、参加したお母さんからも「この場がなければなかなか話す機会のない高校生との交流が楽しい」と好評を得ています。

### 誰もが住みよい地域を 目指す

学校のみでなく福祉施設とも連携を図って活動している布佐地区社協のメンバーは、障がい者・高齢者施設を巡る見学会を実施して、そこで得た知識や実感を日々の活動に生かしています。

障がい者とその家族・付き添い者が対象となる「手作りピザ・手作りうどん教室」は、市内すべての障がい者施設に参加を呼びかけて開催しており、毎回約20組が参加。ピザ教室は夏、うどん教室は冬に実施しています。作り方は本格的で、生地作りからみんなで真剣に、そして楽しく取り組んでいます。

高齢者に特に人気なのは、ボランティアの先生による「健康マージャン教室」(年2期)。脳トレーニングや身体リハビリにも効果的で、初心者や女性の参加者も多いとか。これまでに第7期生までが教室を卒業しており、そ



ロコモティブシンドローム予防健康教室

の数は実に150人以上。卒業生は自主的にサークルを立ち上げて自由にマージャンを楽しんでおり、活動は広がりを見せています。

さらに布佐地区社協では近年、健康増進の取り組みに力を入れています。ここ2年ほど実施しているのが、足腰が弱くなって転倒・骨折の危険性が高くなる“ロコモティブシンドローム”を予防するための「ロコモティブシンドローム予防健康教室」です。講師を務めるのは、講習を受けた布佐地区社協のメンバー。椅子を使った運動などで、筋力アップを目指します。地域住民から好評を得ており、「会場をもう一か所増やしてほしい」等の要望も数多く寄せられているとのこと。

地域のあらゆる人々を対象として、ニーズに応じた数々の取り組みを続ける布佐地区社協。今後さらに「助け合い・支え合う地域の輪」は広がっていくことでしょう。

## まちづくり協議会や布佐商興会など多くの団体と連携

### 日頃のつながりが、 災害時に真価を発揮する

布佐地区社協の活動のほとんどは、事務局のある「近隣センターふさの風」および「布佐南近隣センター」で実施されています。布佐地区社協として、各センターに集まった住民が知り合いを増やして地域に戻り、地域内の見守り・支え合いにつながっていくことを期待して活動を続けています。

また、団体との結びつきも大切にして布佐地区社協では、まちづくり協議会や布佐商興会、小・中学校など、数多くの団体とも連携して事業を実施しています。

こうした活動の成果が目に見えたのは災害時。東日本大震災では布佐地区も液状化がひどく、148棟が全壊、半壊

や一部損壊を含めると238棟。平成25年10月の水害の際には、350世帯が被災しました。これらの非常事態に日頃の連携が生かされ、地域住民の支え合いの精神が発揮されたのです。

東日本大震災の際は、炊き出しサポートや市協ボランティアセンターのサテライトとして、布佐地区社協は地区内や市全域からのボランティアの現場窓口になりました。

その経験が台風26号による水害時の大連携に繋がりました。大震災以降、更に連携を強めていた自治会が即ボランティアの呼びかけをしてくれ、その声に



布佐地区社協委員&社協応援団(ボランティアさんたち)と事務局員

応えて多くの地域住民がボランティアに駆けつけてくれました。

また、若い力の有り難さも実感。日頃からつながりのある中学生・高校生が数多く駆けつけ、行政発行のビラの配布、濡れた畳出しや家具の運び出し等に大車輪で動いてくれました。

活動を通して得られた多くのつながりや結びつきが、今後も布佐地区を支えていきます。

※我孫子市人口：133,558人 65歳以上人口：35,346人 高齢化率：26.5% (平成26年4月現在)



## 健康・子育て・地域 / 異世代交流が活動の三本柱です

健康サロン

浦安市社会福祉協議会には10の支部協があります。その中のひとつ、浦安市社会福祉協議会西2支部（以下、西2支部）は、エリア内にJR京葉線の舞浜駅がある人口密度の高い地区ですが、毎月のように開催するサロンなどのイベントはどれも大盛況です。今回は高齢者の健康、子育て中のママの応援、そして地域・異世代交流を3本柱とする、西2支部のさまざまな取り組みをご紹介します。

### ■ 高齢者が健康に暮らせる街づくり

西2支部ではこれまで、地域福祉フォーラムの取り組みも取り入れながら、活発に活動を推進してきました。そして現在最も力を注いでいるのが、高齢者の健康維持を目的とした「健康サロン」や「健康教室」などの事業です。「健康サロン」は毎月2回（第1・第3金曜日）、舞浜レインボーくらぶ会館で開催しています。地域包括支援セン



左から副支部長の市坪恵利子さん、支部長の谷昭夫さん、書記の高須和子さん

ターが作成した「浦安はつらつ体操」、ゴムを使った筋トレのような「セラパン体操」、軽快なリズムに合わせて顔と口のエクササイズができる、千葉県歯科医師会オリジナルの「スマイルアップ!ちば体操」など、お茶の時間を挟みながら身体を動かす2時間のプログラムとなっています。「健康のためでも1人で運動するのは面倒。だけど皆と一緒にだと楽しい」と、毎回の開催を心待ちにしている参加者も多いそうです。

また、年3回ほど「チェアエクササイズ」や「脳トレゲーム」などを行う特別企画を開催しています。

「健康教室」は東野にある総合福祉センターなどを会場に、2005年から毎年1回開催しています。著名な医療関係者などを講師に招き、健康に関する講演をしていただいた後、バイオリンやフルートなどの演奏で癒されるという流れになっています。

西2支部ではこのほかにも、毎回約100名が参加する「日帰りバスツアー」（平成25年度は「笠間稲荷の菊まつり」へ）や、マジック、落語といったさまざまなショーを楽しめる「ふれあいまつり」など、高齢者が楽しめる事業を開催しています。

### ■ 子育てを通じた母親同士の気兼ねないおしゃべりタイム

子育て中のママを応援する代表的な事業が「子育てサロン」です。0歳児の母親を対象に毎月1回（第3月曜日）、富士見和貴会館で開催。毎回10組以上の母子が参加しています。時には保健師や歯科衛生士、助産師などを招いてお話を聞くこともありますが、母親の友達づくりが主な目的のため、90分のほとんどをフリートークの時間としています。参加者同士、子育ての悩みなどについて気兼ねなくおしゃべりできて、初めて参加した人でもすぐ打ち解けられると好評です。



サツマイモの苗植え



子育てサロン



ふれあいまつり



ケナフの紙すき体験

### ■ 子どもたちと高齢者の自然な交流を育む場を提供

また、地域・異世代交流の代表的な事業として、舞浜公園での「ケナフ・サツマイモ栽培」があります。

支部の発足まもない2002年から行っている「ケナフ・サツマイモ栽培」は、幼稚園と高齢者の貴重な交流の場となっています。ケナフを栽培して

いる理由は、空気を綺麗にする植物だからとのこと。5月に皆で種をまき10～11月には2～3mもの大きさになったものを収穫し、幼稚園児が紙すきをしてハガキを作ったり、葉を粉にしてパンやクッキーに入れたり、竹炭を作っている団体に依頼して炭に加工することも。サツマイモは掘る食べるを楽しむだけでなく、ツルでクリスマス用のリースや正月飾りなどを作ってい

ます。

### ■ 若い推進委員を大募集!

今後については、「健康サロン」を自治会の協力を得て各地区で行えるようにしたいと考えているそうです。また現在、約50名の推進委員がいますが、もっと若い人にも加わってもらい、一緒に活動を推進していきたいとのこと

## 浦安市社会福祉協議会

## 将来を見据えて市民後見人を養成!

決して広くはない市内に10もの支部協があるため、密度の濃い活動ができていることが、浦安市社会福祉協議会（以下、浦安市社協）の特長と言えます。

浦安市社協では平成26年度から市より受託し、市民後見人の養成に力を注いでいます。施設実習を含む約10日間の「浦安市市民後見人養成講座カリキュラム」を実施し、最終的には3年後の一人立ちを目指しています。全国的にもそうであるように浦安市も高齢化が進んでおり、その数は今後さらに増えると予想されています。したがって高齢者や障がいのある方々を、福祉だけでなく法的に支えなければならない時代になりつつあり、

その役割を市民の方々にも担ってほしいと考えています。

子育て支援事業については、平成26年9月、浦安市、UR都市機構、そして浦安市社協の協働により、乳幼児と子育て中の親が交流できる場としてUR都市機構の賃貸住宅の集会所に「望海（のぞみ）の街 子育てサロン」をオープンし、初回は35組の親子が参加しました。浦安市は核家族が多いため子育て支援を重視すると同時に、地域の資源を有効に活用し地域づくりを推進する、官民一体となった先進的な取り組みです。

浦安市は東日本大震災で甚大な被害を受けました。その教訓を活かし災害時



左から地域づくり課・課長の斉藤正伸さん、事務局長の石井典亮さん、生活サポート課・課長の牧野剛さん

に向けた体制づくりに取り組み、平成25年度に県内初となる常設型の「災害ボランティアセンター」を浦安市社協内に設置しました。

また、平成27年度に向けて「うらやす地域福祉活動計画Ⅲ」を策定中で、これらの活動と併せてより多くの市民の方々に地域の活動に参加していただけるよう、内容を充実していきたいと考えています。

※浦安市人口：162,952人 65歳以上人口：23,962人 高齢化率：14.7%（平成26年4月現在）



# 住みよいまちづくりの実現へ向けて 福祉教育・地域福祉活動を地域に広げる

いきいきサロン

四街道市社会福祉協議会(以下、四街道市社協)では、地域で暮らす人々を地域で支える多様な活動を推進しています。このうち地区社会福祉協議会(以下、地区社協)は、おおむね中学校区を中心に市内6地区で活動を展開。地域福祉フォーラムは平成20年度から6地区すべてで取り組んでいます。今回はその中から、①地域ぐるみで推進している福祉教育の取り組み(パッケージ指定)、②地域の課題を地域で解決していく取り組み(地域福祉フォーラム、地域福祉ネットワーク推進事業)を紹介します。

## 千代田中学校地区の展開 ～福祉教育の推進～

千代田中学校地区は、学校と地域が互いに連携・協働して福祉教育を進める「福祉教育パッケージ指定」を平成23年度に県から受け、千代田中学校地区社会福祉協議会(以下、千代田中地区社協)が「福祉教育推進団体」として、また八木原小学校、南小学校、千代田中学校、県立四街道高等学校の4校が「福祉教育推進校」となって3カ

年間の事業を開始しました。まず4校の教員や地区社協の役員等をメンバーとした連絡会を組織し、「つなげよう、みんなで支える、福祉の力」という共通目標を決めました。千代田中地区社協は元々学校とのつながりがあり、八木原小学校にある地域福祉館を利用してサロンを開いたり、校内に地域のボランティア室があるなど、地域の大人が日頃から行き来し、児童も高齢者への給食サービスにお便り活動で参加していました。

実践は、4校がこれまで行ってきた学習や活動を基本に、これを深め、さらに学校・地区社協・地域で協働していくことを目指しました。例えば、八木原小学校、南小学校では合唱の発表に地域の人たちを招いたり、地域の行事に出向いて披露しています。千代田中学校では2つの小学校と行ってきた「歌声交流会」に、新たに地域の合唱サークルにも参加を呼びかけ地域の大人も参加するように



昔遊び(あやとり)を教わる子どもたち

なりました。四街道高等学校では、演劇部員が振り込め詐欺防止の啓発事業で寸劇を演じたり、吹奏楽部員や美術部員が地域イベントに協力するなど多様な活動を展開。千代田中地区社協は、子どもたちの学びや育ちを地域の大人が見守る八木原小ボランティア部主催の「寺子屋自学塾」に積極的に関わっ



千代田中地区社協会長  
長谷川睦美さん

ています。そこには地域の大人だけでなく高校生や中学生が児童に勉強を教えにやっています。

## 成果を次の活動につなげて

取り組みの成果について、千代田中地区社協会長の長谷川睦美さんは「パッケージ指定の取り組みによって学校同士のつながりを改めて意識し、学校と地域との関わりは以前より多くなりました。指定3年目の平成25年5月には4校の児童・生徒と地域の大人が集まって『活動報告発表会』を行いました。こうした活動を通じて大人と子どもは顔なじみになり、地区で挨拶ができるようになりました」とのこと。また、四街道市社協の豊田紀幸さんは、「福祉を特別なことと意識せず、例えば、好きなことを通して誰かに喜んでもらえる、互いを知るといことが自然にできていると感じています。パッケージ指定の3年間はきっかけとして捉え、4年目以降の活動につなげていくのが目標です」と語ります。今後も「自分にできることは何か」を考えながらボランティアに取り組む。このようなことが地域の重点テーマとして挙げられています。

## 四街道北中学校地区の展開 ～支え合いの地域を目指す～

四街道北中学校地区社会福祉協議会(以下、北中地区社協)では、地域福祉フォーラムに取り組んだ3年間で中学校区内の18地区を10エリアに分けて、



夏休み多世代交流事業「みんなで作ってみんなで遊ぼう!」

各エリアで年1回ずつ住民懇談会を開催。懇談会は回覧板や声掛けなどでより多くの住民への周知を図り、毎回各会場とも20～35人ほどが集まりました。住民懇談会では、①買い物など生活の困り事の支援、②ひとり暮らし高齢者の見守り、③人口が減少している自治会の機能維持、④子育て支援、⑤障がいのある人の外出支援、⑥自治会役員など人材が継続して活躍できる仕組みづくりなど、多くの課題や住民ニーズが発掘されました。

「活動を継続し、課題を分析し、『自分たちで取り組んでいけるものは取り組んでいく』ということをみんなで決めました」と北中地区社協会長の矢口廣見さん。地域における異世代交流の場の減少や、地域の子どもを地域で育



北中地区社協会長  
矢口廣見さん

てること、大人の生きがいづくり、孤立防止などのニーズや課題を踏まえ、新たな取り組みとして平成24年度より多世代交流事業を開始。具体的には地域探訪、クッキング、工作などを行い、子どもたち、その親、地域の大人

人たちがつながりを広げています。

また、高齢者の居場所づくり・交流・孤立防止を進めたいという目的から、各区・自治会にいきいきサロンを立ち上げ、展開してもらえるよう支援をしています。こうした支援を継続する中で、いきいきサロンの趣旨を十分に理解した自治会が自ら予算化し、運営してくれているところも出てきています。

北中地区社協では、地域福祉フォーラムでの3年間の取り組みを通じて関係団体とのつながりが生まれ、地域のNPO関係者や福祉関係者などさまざまな団体が連携して事業を展開しています。まとまりができてきていること、人の輪が広がっていることを矢口さんは実感しています。

## 四街道市社会福祉協議会

# 住民による取り組みを後押し

四街道市社協の鈴木陽子さんは「地域福祉フォーラムに取り組むに当たっては、課題を話すだけでは意味がないという意見が当初から出されていました。地区社協に関係する皆さんは、地域福祉フォーラムの話し合いの中で見えてきた課題を一つでも解決していこうと取り組んでいます。こうした動きは住民懇談会や総会に参加している方にも伝わり、それぞれの地域で課題解決に向け活動しています」と話します。多様な生活の困り事、社会的孤立、活動に出てこれない

人の見守り・つながりをどうするか——子どもから大人まで、他者を理解し、自分たちに何ができるのかを話し合い、できることから始める取り組みが進められています。

これら地区活動のさらなる助けになれば、四街道市では、地域福祉フォーラムの3年間の助成が終了となった平成23年度以降、「地域福祉ネットワーク推進事業」として市・市社協から6地区に対して毎年度20万円の助成を行っています。各地区は助成を



左から、鈴木陽子さん、古谷夏子さん、武田雄大さん、豊田紀幸さん、及川哲さん

受けながら地域のネットワークを広げ、地域課題の解決に向けた取り組みを続けています。

※四街道市人口：91,011人 65歳以上人口：23,660人 高齢化率：26.0% (平成26年4月現在)



## つながりを大切に。その積み重ねで孤独を生まない地域を目指す

「クリスマス昼食会」のくじ引き大会。何が当たるかは楽しみ

できる人ができることをやる。住民が自分の得意なことをして地域に貢献し、その積み重ねで孤独を生まない地域を育てていく——言葉にするのは簡単でも、それが地域に定着するのは難しいこと。それを実現させているのが、印西市社会福祉協議会ニュータウン中央北支部（以下、NT 中央北支部）の活動です。住民の努力で住みよい環境を作り上げている、そんな NT 中央北支部の活動を紹介します。

### ■ 地域の実情に対応した活動を

印西市社会福祉協議会（以下、印西市社協）には8つの支部社協があり、NT中央北支部は昭和59年、千葉ニュータウン事業によって印西市で最初に入居が始まった地域に位置します。入居開始から30年が経過して高齢者世帯や高齢者の単身世帯が増えている一方で、近年では同じ地域内に高層集合住宅や戸建て住宅が新築され、若い世帯による人口も増加しています。こうした変化や社会情勢に柔軟に対応した活動が

必須だと考え、支部長の**大和雅子**さんをはじめとするNT中央北支部のメンバーは日々活動しています。

主な活動と



NT中央北支部長の**大和雅子**さん

して①ふれあいの集い、②ふれあいサロン・よつば茶房、③よつば昼食会、④日帰りバス旅行、⑤ふれあい麻雀教室、⑥小・中学校とのふれあい交流会、⑦交通安全防犯教室などが挙げられます。

### ■ 異世代交流の場から地域のつながりが生まれる

高齢者と子どもたちの交流の場「ふれあいの集い」（年1回）は、NT中央北支部、木川中学校、地域のコミュニティセンター「フレンドリープラザ」の三者共催で実施しています。平成26年度は6月12日に木川中学校体育館で開催しました。今回で19回目を迎えるこの集いには、60歳以上の地域住民なら誰でも参加でき、今回は90数名が参加。1年生を中心とする木川中の生徒たちと交流を深めました。

当日は、吹奏楽部の演奏や「木川中よさこいソーラン」の発表、生徒たちが考えたゲームを楽しみながら交流を行う

「ふれあいタイム」などに加えて、小倉台小学校4年生や木川小学校2年生の可愛いリコーダー演奏や合唱も披露されました。さらには、地元である印西市を中心にボランティア演奏を行っているア・カペラ女声コーラスグループ「アンサンブル・クリヴィア」による演奏も。

「核家族が多い現在、こうしたイベントを開催することで地域のつながりを深めていきたいです。地域で活動しているグループにもどんどん参加してもらいたいですね」と大和さんは話してくれました。

### ■ 多くの協力者に支えられた活動

「よつば昼食会」は65歳以上で一人暮らしの方を対象とした食事会で、年10回開催されています。そこではボランティアで来てくださっている先生方の手ほどきによって、歌やヨガも楽しめます。このように、人と人とのつながりを大

事にしているNT中央北支部の活動は、多くの協力者に支えられていることが特徴の一つです。「よつば昼食会」の中でも一際盛大に開催される12月のクリスマス昼食会と1月の新年会も例外ではありません。

平成26年12月17日に開催された「クリスマス昼食会」では、華やかな飾りつけやプロ顔負けの豪華な料理が用意されました。これもすべてNT中央北支部のメンバーや数多くのボランティアが準備したもの。売り物かと思ふようなオシャレなテーブル上の置物までが手作りで、それぞれのメンバーやボランティアが自分の得意分野を生かしてイベントを支えているのです。

この日の出し物は、ボランティアの方の娘さんとその友人によるグループ「コンタディーネ」によるオペラ。ここにもつながりを大事にするメンバーの思いが表れています。会のラストを飾った「くじ引き大会」のプレゼントも一部購入もありますが、地域からの寄付品やボランティアの手作り品も多く、商品を手にした参加者は皆大喜びでした。

ちなみに、新しく昼食会の対象者となった方には民生委員が案内を配ってお誘いしており、この日の初参加者は全参加者60数名のうち5名でした。長



年ご主人を介護してきたという女性は「ここで友達を作って豊かな人生を過ごしたい」と、楽しそうな笑顔を見せていました。

### ■ 顔の見える関係づくりで孤立を防止

NT中央北支部では、今後も引き続き精力的に活動を推進していきたいと考えています。

「毎月イベントを開催しているので、



味はもちろん、見た目にも一切手を抜かないこだわりよう



オペラグループ「コンタディーネ」によるクリスマスソングに参加者一同聞き惚れました



「ふれあいの集い」では、子供たちの明るさに自然と頬がゆるみます

参加者のちょっとした変化に気付くこともできます。これからも、地域の仲間づくり、顔の見える関係づくりを目指して活動を進めていきたいですね」と大和さん。

つながりを大切にすることで多くの参加者や協力者の共感を得て、積極的に活動を推進しているNT中央北支部。孤独な住民を作らないという強い思いからくる取り組みが、地域の中で明るく生きる住民の意識を育てています。

## 印西市社会福祉協議会

### 社協支部の特徴を生かした活動を推進

平成22年3月に印西市と印旛村と本埜村が合併し新しい「印西市」が誕生。自然環境に恵まれ、長い歴史の中で培われてきた風習や文化が数多く残っている一方で、都市機能が集積された千葉ニュータウン区域を有しているのが印西市の魅力です。

NT中央北支部の今後の課題は、①団塊世代が多く暮らしている地域で、会社勤務定年後に地域の福祉活動にどう関わってもらうか、②男性参加者をどう取り込めるか、③参加者増加による会場の確保などです。「まずは、ボランティアの

方々に心よりお礼を言いたい。率先して協力してくださる気持ちが、地域活動の原動力になっています」と副支部長の塩谷忠嗣さん。「地域には様々な得意分野を持つ人たちが暮らしています。その人たちを見つけて出し、活躍してもらう場を作り出したいと考えています」とのことです。

印西市社協事務局長の橋詰昌さん、そして支部社協の担当者である吉野誠一さんも、このようなNT中央北支部の取り組みをはじめとする支部社協の活動を



NT中央北支部のメンバー（一列目中央が副支部長の塩谷忠嗣さんと、印西市社協の橋詰昌さん（一列目右から2番目）、吉野誠一さん（最後列左）

支援しています。「8つの支部社協それぞれに特徴があるので、特徴を生かした活動を続けてほしいと思います。自主性を尊重しながら活動を応援し、いざという時には頼りにしてもらえ、そんな存在であり続けたいですね。」

※印西市人口：93,085人 65歳以上人口：17,306人 高齢化率：18.6%（平成26年4月現在）



## 高齢者も子どもたちも “笑顔”になれる活動を!

多くの人が次々に訪れた芋煮会

香取市の新宿地区社会福祉協議会(以下、新宿地区社協)は、市内でもっとも大きく、とても実行力のある地区社協です。「地域の人々のためになる」「地域の人々が笑顔になる」と思われる提案が出されれば、役員の方々が先頭に立って走り出し、新宿地区社協のメンバーはもちろん周囲の人々や企業なども巻き込んで提案を実現させてしまいます。

今回は、そんな活気溢れる新宿地区社協の取り組みをご紹介します。

### ふるさとの活性化に貢献! 大盛況の「大芋煮会」

平成26年12月7日、香取市中心部に設置された会場で、新宿地区社協の主催による第1回「大芋煮会」が開催されました。訪れた多くの人々に、大きな鍋で調理された約400食の芋煮と100食のうどんが無料で振る舞われました。

芋煮の材料となったサトイモ、豚肉、ニンジン、ネギなどはすべて地元産。新宿地区社協は日頃からさまざまな企業、団体、ボランティアなどと連携しており、これらの野菜も『道の駅水の郷さわら』出荷者協議会の方々からご提供いただいたとのこと。

味付けにも妥協しません。芋煮の本場である山形県まで視察に行っただけでなく、醤油、味噌、そして塩など、さまざまな味付けで試作を重ね最終的に醤油味に決定しました。そんなこだわりの一品に、大賑わいの場内には「美味しい!」という歓声が飛び交っていました。

この「大芋煮会」、日頃まちに活気がないこと、そして地域住民が集まる機会もあまりないという現状を憂えて、地域の活性化を目指して開催を決めたとのこと。その狙いどおり、会場では古くからの

仲間たち、久々に顔を合わせた人たち、子どもたち…あらゆる人が舌鼓を打ちながら、楽しそうにお喋りに花を咲かせている姿が見られました。

平成26年度はこのほか、「ふるさとさわら盆踊り大会」も初めて開催するなど、新宿地区社協はまちの活性化や子どもたちのふるさとづくりを目的とした事業を積極的に推し進めています。

### 多くの方が参加しやすいよう 配慮した事業を展開

新宿地区社協では、カラオケや健康体操などを行う「サロン事業」や、「高齢者日帰り・入浴サービス」など、高齢者を対象とした事業にも力を注いでいます。「サロン事業」と「高齢者日帰り・入浴サービス」はおよそ1ヵ月交代で実施しています。

「サロン事業」には毎回30名以上が参加。広い地区内の3ヵ所(公民館な



左から会長の秋山隆さん、会長の山崎日出明さん、理事兼事務局長の鈴木栄司さん



サロン事業(健康体操)



仮設住宅で避難者の見守り活動

ど)に会場を設け、月によって場所を変えながら開催しており、利用者は身近な会場で参加することができます。

「高齢者日帰り・入浴サービス」には毎回60名以上が参加しており、2台のバスで日帰り温泉施設への送迎を行うことで、体の不自由な方でも参加できるようにしています。

このように、どちらの事業も、多くの方が参加しやすいようにきめ細かな配慮がなされており、そうした配慮が参加者の多さにつながっているのです。

新宿地区社協会長の山崎日出明さん、山崎さんと同級生という理事兼事務局長の鈴木栄司さん、そして会計を務める秋山隆さんは、口を揃えてこう言います。「福祉活動は日時を決めて場所を用意するだけではダメなのです。誰も

が参加できるようにきめ細かな配慮をし、利用する方々の本当のニーズに応えなくてはなりません」と。ちなみに山崎さんは、市内の人気スポット『道の駅水の郷さわら』の代表や、ショッピングセンターの代表取締役を務めるほか、ラーメン店も経営するいわばサービスのプロ。日々培われてきたサービス精神も、地区社協の取り組みに大きな影響を与えているのでしょう。

### 災害時にも 被災者支援に奔走

山崎さんが会長に就任したばかりの平成23年3月に発生した東日本大震災の際には、約5,000棟が全半壊・一部損壊するなど、香取市も大きな被害を受けました。多くの住民が避難所生活

を送ることとなりましたが、それまで3年間「地域福祉フォーラム」を活用しながら積極的に活動を行っていた新宿地区社協のメンバーは、その時もニーズに応えるべく自ら被災者支援に奔走したのです。

例えば、避難所で被災者におにぎりとお茶が配られているのを見て、「こんなに寒いから、温かいご飯が食べたいに違いない」と考え現地で炊き出しを行ったり、応急仮設住宅では見回りなども行いました。

このように、精力的に活動を続ける新宿地区社協。その理由は単純明快で、「私たちはみんなの笑顔を見られるのが一番嬉しい、だから頑張れるのです!」とのこと。

新宿地区社協の周囲には、これからもたくさんの笑顔が集まることでしょう。

## 香取市社会福祉協議会

### 防災・減災、 そして福祉教育に力を注ぐ!

香取市社会福祉協議会(以下、香取市社協)は平成18年4月、佐原市、小見川町、山田町、栗原町の社会福祉協議会が合併して誕生しました。そのため、市内には23もの地区社協があります。合併して8年が経過しましたが、4つの事務所もそのまま機能しているため、年を重ねるごとにベクトルを合わせている面もあれば、それぞれの地域の独自性を生かしながら事業を実施している面もあります。

香取市社協では現在、人口減少が続いているという理由もあり、次代を担う子どもたちのための福祉教育に力を注いでいます。この地域も総合学習が導入さ

れてから福祉教育に取り組む学校が増え、福祉関係者の講義や障害を持つ方々からのお話を聞きたいという依頼を受けることが多くなってきました。こうした取り組みを推進するため、3年前には市内の小・中・高校を対象とした助成金制度を起ち上げました。

香取市は平成23年3月に発生した東日本大震災で、県内でも被害の大きかった地域の一つであり、特に断水には苦しみました。それを教訓とし、今後も災害発生時のマニュアル策定を含む防災・減災に対する取り組みを推し進めたいと考えています。

また、地区社協活動に関しては、当



香取市社協 柳田勝彦さん

面の目標としてすべての地区社協においてサロン、見守り活動を実施してもらおうように働きかけたいと考えています。その意味でも今回ご紹介いただいた新宿地区社協の活動は、他の地区社協だけでなく香取市社協にとっても良い刺激となっています。

※香取市人口：81,647人 65歳以上人口：24,706人 高齢化率：30.3%(平成26年4月現在)



## 子どもたちとのふれあいを大切に 小学校と連携したきめ細かな福祉活動を実現

ふれあいタイム

千葉県の北東部、豊かな水をたたえる利根川のそばに位置し、県内有数のイチゴの産地としても知られる東庄町。この町の福祉活動拠点となる東庄町社会福祉協議会(以下、東庄町社協)には4つの社協支部があり、そのすべてが小学校に事務局を設置しているのが大きな特長です。その中の一つである東庄町社会福祉協議会笹川支部(以下、笹川支部)の事務局も笹川小学校に設置されているため、高齢者を対象とした事業はもちろんのこと、子どもたちとの交流も大切にして活動しています。

### おじいちゃん、おばあちゃんがヒーローに!?

笹川支部と笹川小学校との連携が最も色濃く表れているイベントが、年1回、5月に同校のグラウンドで開催さ



ふれあいグラウンドゴルフ大会

れる「ふれあいグラウンドゴルフ大会」です。

この大会には、毎年約40人もの高齢者と50人ほどの笹川小学校に通う5年生の子どもたちが参加し、チームを組んでプレーします。グラウンドゴルフと子どもたちとのふれあい、その両方を楽しめるこの大会を楽しみにしている高齢者は数多く、毎年、開催日が近くなると問い合わせが来るほどの人気イベントとなっています。

東庄町はグラウンドゴルフが盛んな地域で、グラウンドゴルフ場も各地区にあります。マイクラブなど自分の道具を持っている人も少

なくありません。そのため、本大会は「おじいちゃんやおばあちゃんが、子どもたちのヒーローになれる日」になるのです。

子どもたちも総合学習の時間に練習を行ったうえで大会当日に臨んでいるのですが、簡単そうに見えるグラウンドゴルフも実際にプレーしてみると想像以上に難しく、子どもたちはクラブをボールに当てるのに一苦労。しかし、一緒にプレーしている高齢者はいとも容易くクラブを振り抜き、遠くにあるホールポストへとボールを導きます。その姿に子どもたちは「おじいちゃん、おばあちゃんってスゴいっ!」と目を輝かせるのだそうです。

プレーが終わった後にはふれあいタイムがあり、簡単なクイズやゲーム、そして肩たたきなどをしながらさらに交流を深めます。最後にグラウンドゴ



ふれあいタイム

ルフの表彰式と景品の授与が行われ、最後まで明るく楽しい雰囲気のままに大会は終了となります。

これを機に顔見知りになった高齢者と子どもたちが、近所で顔を合わせると互いに挨拶を交わして話をするようになるなど、地域のコミュニティづくりにも役立っています。

### ニーズに応じたサロン活動で 高齢者を支援

高齢者福祉にも力を注ぐ笹川支部では、毎年「ふれあいきいきサロン(以下、サロン)」事業も展開しています。サロンは年に2回程度開催しており、特に決まった開催日や開催場所はありません。「サロンを開催したい」という声が上がれば、その地区の集会所や区民館等を利用して開催しています。様々な地区が開催場所となる可能性があるため、足腰に自信のない人でも、自宅の近くで開催された時に参加することができます。

魅力です。

また、サロン事業の中で、町民バスを利用して日帰りの「研修バスツアー」を行うこともあり、こちらも参加者に人気のイベントとなっています。平成



いきいきサロン

プログラム内容も明確に定まっているわけではないので、開催することに工夫を凝らしたプログラムが展開されます。ちなみに平成26年5月に開催したサロンには24名が集まり、手話を使って「ふるさと」を歌ったり、大正琴の演奏を楽しんだりしたそうです。ニーズに応じて柔軟に対応できるのが、このサロンの

26年6月に開催された同ツアーには25人が参加。芝山町の「航空科学博物館」を見学したり、栄町の「房総のむら」で地域の伝統的な生活様式や技術を体験したりと、みんなが笑顔で小旅行を楽しみました。

### ふれあいが生む絆で 地域の課題を乗り越える

笹川支部では、身近な場所により多くの人が気軽に集まれる場を用意することや、家に引きこもりがちな高齢者にサロンに足を運んでもらう方法を考えることなどを今後の課題としています。

そして、今後も地域の人々や子どもたちとのふれあいを大切に、堅実に活動を積み重ねていきたいとのこと。

## 東庄町社会福祉協議会

### はつらつ支援ボランティアが 今後のサロンを変えていく

東庄町と東庄町社協共催で平成25年度から「はつらつ支援ボランティア養成講座」を開催し、高齢者の介護予防などに寄与する活動を行うボランティアを養成しています。講座の修了者は現在48名で、東庄町社協ではこの「はつらつ支援ボランティア」の協力を得てサロンの運営を行う方向へと舵を切っています。

その理由としては、①地域住民の力で地域住民を支える体制を目指していること、②同講座の修了者の多くは他のボランティア団体にも所属しているため、その団体の特性を活かしたさまざまなサロン活動が行えること、③サロンは比較的小規模で不定期に実施しているため、少

人数のボランティアでも対応が可能であることなどが挙げられます。

平成26年度は4回、各社協支部と「はつらつ支援ボランティア」が連携してサロンが開催されました。手品を披露したり、ゲームやクイズで遊んだり、それぞれの会場で工夫を凝らしたレクリエーションが行なわれています。さらには、傾聴ボランティアのグループに所属している「はつらつ支援ボランティア」がサロンの中で傾聴の時間を設けたところ、普段人と話す機会が少



左から、笹川支部の事務局(笹川小学校教務主任)平澤徳彦さん、副支部長城之内典子さん、支部長 森田公治さん、東庄町社協の菅野梢さん、菅谷義夫さん

ない参加者に喜ばれた——というような相乗効果も生まれています。

東庄町社協では今後も「はつらつ支援ボランティア」ならではの強みを生かしたサロンの運営を目指していきます。

※東庄町人口：14,988人 65歳以上人口：4,668人 高齢化率：31.1% (平成26年4月現在)

# 住民が安心して生き生きと暮らすために 日頃の見守り・支え合いを築く



小学生に昔の遊びを教える

人口減少、地縁の希薄化、社会的孤立、買い物困難。こうした社会や地域の課題が明らかになる中で、匝瑛市では、市内11の地区社会福祉協議会（以下、地区社協）と匝瑛市社会福祉協議会（以下、匝瑛市社協）が地区や住民に働きかけ、見守りや支え合いを築き直し、誰もが安心して生き生きと暮らすことのできるまちづくりを進めています。今回は、地域福祉フォーラム、安心生活創造事業<sup>\*1</sup>などを通じた地域づくりの展開を中心に紹介します。

## 地域のニーズを受け止めて 支援の仕組みづくりを目指す

匝瑛市社協と11地区社協は、いきいきサロン、サテライトデイサービスなどの取り組みを展開しています。「地域福祉フォーラム」には、これまで5地区が取り組み、地区の協働の推進体制の設置などを進め、平成22年度からは民生委員と連携して「あんしん箱事業<sup>\*2</sup>」を展開しました。また、平成

24年度からは厚生労働省のモデル事業である「安心生活創造事業」を開始しています。匝瑛市では全11地区で安心生活創造事業を展開。見守り支援



豊栄地区社協会長・豊栄地区民生委員児童委員協議会会長 平山瑞子さん

「要援護者台帳作成事業」と買い物支援「宅配電話帳事業」を行い、地域の支援体制と支援を継続していく仕組み作りを目指しています（見守りの対象は、①70歳以上のひとり暮らしの高齢者、②75歳以上の高齢者世帯、③障害のある人、④そのほか見守りが必要と思われる人）。具体的な進め方は各地区で話し合い、自分たちの地区に合った方法で取り組みを展開しています。

## 豊栄地区の取り組み ～安心生活創造事業～

豊栄地区には農業が盛んな地域、新興住宅地、公営住宅があり、中には高齢化率が50%を超える集落もあって少子高齢化が進行しています。豊栄地区社会福祉協議会（以下、豊栄地区社協）では安心生活創造事業を推進し、平成24年10月から要援護者台帳作成を開始しています。6人の民生委員が担当地域の対象者を一軒一軒訪問し、本人の意向を確認していききました。地区社



あんしん箱事業

協では、これまでに高齢者に防災ラジオを配布する事業、あんしん箱の配布を進めており、そのつながりが今回の取り組みに大変有益でした。

しかし、地区内の公営住宅では住民の転出入があり、住民も近隣の状況を把握しきれていない状況がありました。そこで公営地区のサテライトデイサービスに参加している人たちの中でリーダー的な存在の人と話し合い、彼らに推進役（高齢者グループのチーフ）として協力してもらい、民生委員と共に要援護者の把握と同意確認を進める工夫をしました。



安心生活創造事業を推進

こうして事業開始から約2カ月後には、本人から聞き取りをした情報を基に「要援護者台帳・マップ」を作成することができたのです。「当初、『自分たちにできるだろうか』と感じていましたが、事業の目的をみんなで理解する間に意欲が出てきました。その結果、要援護者台帳・マップの作成後の地区



要援護者台帳・マップ作成

※1 厚生労働省が選定する地域福祉推進市町村が実施するモデル事業。悲惨な孤立死、虐待などを一例も発生させない地域づくりを目指す。平成27年度より「生活困窮者自立支援法」の任意事業として再編予定。  
※2 あんしん箱とは、本人の既往歴・服薬状況・緊急連絡先等の情報と避難・入院先で必要な備品をひとまとめに保管しておく段ボール製のツール。対象者・希望者の把握は民生委員が実施。調査により、事業開始前に想定していた3倍の900人がひとり暮らしの高齢者、高齢者世帯であることが分かり、現在1,200人以上が活用している。

社協総会とはとても盛り上がりました。それぞれに達成感を感じてくれたのだと思います」と豊栄地区社協会長、豊栄地区民生委員児童委員協議会会長の平山瑞子さんは話します。今後も、この事業の周知と要援護者の把握を続け、さらには各関係団体と協働の下、地域全体で活動を進めていく予定です。

## 須賀地区の取り組み ～地域福祉フォーラムも実施～

須賀地区社会福祉協議会（以下、須賀地区社協）では、平成23年度から地域福祉フォーラムを開始しています。話し合いの結果、同地区地域福祉フォーラムでは、普段の見守り、近所の付き合い、人と人の絆を深めていくことが目標になりました。主な事業としては、高齢者の居場所づくりとして、ふれあいサロンの新設や引きこもり予防としてのバスハイクを実施しました。また、サテライトデイサービスに参加している高齢者の方が小学1・2年生に昔の遊びを教えたり、給食と一緒に食べたりするなどの世代間交流事業も行いました。

また、地域福祉フォーラムを基盤として安心生活創造事

業に取り組んだことにより、より地域が活性化するなど相乗効果を得ることができました。「地域の各団体の皆さんに周知し、同じ認識を持てるようになれば、協力者も出てくると考えています。若い人たちも何かしたいという意識を持っています。まずは、ちょっと顔を見に行ったり、縁側でお茶を飲んだり、そうした関係を作っていきたいです」と、須賀地区社協委員・須賀地区民生委員児童委員協議会会長の鈴木勇さんは話します。



須賀地区社協委員・須賀地区民生委員児童委員協議会会長 鈴木 勇さん

事業を通して、地域住民の状況が見えてきた反面、地域の方々には地区社協の活動を伝えきれていないという課題も明らかになりました。平成25年度からは周知の範囲を広げていくことを目標にしています。5年・10年後に地域でどのように支え合っていくのか、今から考えるために、見守り合い・支え合いの地域づくりを一步一步進めようとしています。

また、地域福祉フォーラムを基盤として安心生活創造事

## 匝瑛市社会福祉協議会

# 買い物支援サービスで 地域の活性化につなげたい

匝瑛市では市内全域で買い物支援を進めています。地域の商店が「そうさ見守り協力店」として買い物が困難な人の宅配ニーズに応えるとともに、日頃の生活で要援護者に変化を感じることがあれば安否確認などにつなげる体制づくりを目指しています。同時に、地域活性化につなげたいという思いもあります。市社協・商工会・市が協議し、対象店舗を選定。市社協職員が地域の商店を訪問して事業の参加希望を確認します。現時点で91店舗が協力店となっており、今後、要援護者に宅配電話帳を配布し、買い物支援を開始する予定です。

今後の重点課題は、協力者の確保など。事業全体で要援護者は1,401人登

録していますが、協力者は延べ1,477人、実人数は685人です。「こうした現状を地域に返して、住民と一緒に考えていきたい」と匝瑛市社協事務局長の木野則男さんと言います。

また、調査を通じて、情報から取り残されている人が少なくない状況が明らかになりました。同時に住民票とは違う居住地で暮らしている人や、家族が複合ニーズを持っている世帯などの住民の困り事や地域の課題が発見されることもあり。住民主体で課題解決が困難な場合には、市社協とも相談しながら本人と地域と一緒に課題解決を目指します。「地域の状況把握、情報共有を地域の目



匝瑛市社協事務局長 木野則男さん



高橋 永さん

によって実施したことが多くのニーズをキャッチする基盤構築には肝要でした」と、匝瑛市社協地域福祉班の高橋永さんは言います。

さらに、宅配電話帳だけでは買い物支援や見守りをカバーしきれない状況もあります。互いに助け合い、地域に暮らし続けるためのつながりと知恵を出し合う取り組みを進めています。

※匝瑛市人口：38,979人 65歳以上人口：11,440人 高齢化率：29.3%（平成26年4月現在）

# 子どもたちを主役とした福祉活動を展開中!



「第1回歩いて食べよう会」に参加した元気いっぱいの子もたち

高齢者の見守りや学校行事への協力、さらに異世代交流や地域福祉フォーラムなど、様々な事業を精力的に展開している芝山町の菱田地区社会福祉協議会(以下、菱田地区社協)。年2回開催している「ふれあいサロン」をはじめとする多くの事業にたくさんの子どもたちが参加していることが菱田地区社協の特徴となっています。今回は、少子高齢化が進む地域でありながら、子どもたちを主役とした事業を展開する菱田地区社協の取り組みを紹介します。

## 受け継がれる「全村教育」の精神

芝山町の菱田地区は、前身の千代田村、菱田村であった時代から「全村教育」の精神が受け継がれ、子どもたちを“宝”と呼び地域全体で見守り続けています。そのような理由もあり、菱田地区社協の委員には、地元の町立菱田小学校の校長先生やPTA会長など、

多くの教育関係者が含まれています。そして、子ども会やPTA連絡協議会などとも密接な関係が築かれています。そのため、年2回開催している「母と子のふれあいサロン」を始めとする多くの事業には、毎回たくさんの子もたちが参加。その特徴は、現在菱田地区社協が取り組んでいる「地域福祉フォーラム」にも色濃く現れています。

## 「地域福祉フォーラム」の主役は子どもたち

現在、菱田地区社協が取り組んでいる「地域福祉フォーラム」のテーマは「防災」。その理由はやはり、平成23年に発生した東日本大震災です。初年度は、「地域福祉フォーラム」をより深く理解するために、すでに「地域福祉フォーラム」を進めている先進地区社協を招き、勉強会



参加者に振る舞われたたくさんのおにぎり

を行いました。そして取り組み2年目となる平成25年12月、「ふれあいサロン」の一環として防災訓練、その名も「第1回 歩いて食べよう会」を実施しました。

「歩いて食べよう会」には、子どもたちを含め地区人口の1割にあたる76名が参加しました。その概要は、大きな震災が起きたと想定し、避難所に指定されている菱田小学校に徒歩で向かい、避難所ではどのように過ごすかなどを実際に体験するというもの。



左から、菱田地区社協の庶務 大槻和男さん、会長 小川光子さん、副会長 鈴木幸子さん



7月7日に開催された「ふれあいサロン」で、子どもたちと一緒に作った天の川のパネル

集合場所を決め、ルート上の危険な箇所や、水が飲める場所の確認などを行いながら、避難所まで歩きました。避難所に着いたらまず、1人1枚、避難者カードを記入。室内に入ると、そこにはすでに段ボールで間仕切りをした避難者用のスペースが設置されており、子どもたちは実際にその中に入り、広さや居心地を体験しました。

そしてここから、何事も子どもたちを主役とする菱田地区社協らしく、段ボールの巨大迷路、缶切りを使って



はじめての缶切り

缶詰を開ける体験コーナー、乾パンの早食い競争、さらに、おにぎりやすいとん、おしるこなどが振る舞われるなど、楽しい一日でした。

他の活動同様、楽しくやりたいという気持ちで夜遅くまで、しかし楽しみながら準備したスタッフの思いどおり、楽しい「防災訓練」となりました。

なお、この訓練では防災倉庫の中身や、食料庫の鍵の所在、防災無線の設備を確認できたことなど、得たものはとても大きかったそうです。

## さまざまな事業を積極的に展開

年2回開催している「ふれあいサロン」も、やはり主役は子どもたち。ふれあいサロンの日はカレーを作って振る舞うのが恒例となっており、子どもたちは「カレーの日」と呼んで毎回楽しみにしています。平成26年7月には子どもたちが仮装した写真や短冊を貼り付けた大きな天の川のパネルを作りました。以前には、段ボール製の巨



子どもたちに大人気の「カレーの日」

大な迷路や、風船に魚の絵を描き室内に水族館を作るなど、まさしく子は“宝”を実践しています。

もちろん子どもたちだけでなく、12月には、90歳以上の方にクリスマスケーキをプレゼントしたり、菱田小学校の子どもたちに、80歳以上の方々へ年賀状を書いてもらうなど、高齢者の方々に大切にする事業も数多く行っています。

## 今後の課題

長い歴史を持つ菱田小学校ですが、町内に3つある小学校の統廃合により、平成26年度でその役割を終えることになりました。

菱田地区社協は、その校舎や校庭を地域の人々が気軽に集える交流の場にしたいと考え、全戸からアンケートを取るなどして、現在、その課題に全力で取り組んでいます。

「何か良いアイデアがあれば、教えていただきたいですね」と、菱田地区社協の委員の方々。

そしてこれからも、子どもたちを主役とした活動を進めていくとのことです。



子どもたちから高齢者への手づくり年賀状

## 芝山町社会福祉協議会

# 1食200円のお得な「給食サービス」ぜひ、ご利用ください!

芝山町社会福祉協議会(以下、芝山町社協)は、従来の地域における福祉事業や、在宅福祉サービス事業などに加え、本年度から、福祉センター「やすらぎの里」の指定管理者となり、また、「老人クラブ連合会」の事務局業務を担うなど、徐々に事業規模を広げています。

芝山町には、現在7つの地区社協があり、それぞれに特色があることから、個々のニーズに合った対応を心がけています。

現在、その7つの地区社協と協働で取り組み力を注いでいるのが「給食

サービス事業」です。

町内在住の高齢者や、在宅介護が必要な方々に、月2回、夕食のおかずをお届けするこの事業は、味はもちろん、健康面や旬の素材を使うなど、様々な配慮をしています。

しかも、平成26年度から料金を値下げしました。これまでは1食300円でしたが、今年度からは1食200円でご提供しています。ボリュームもありデザートも付いているので、とてもお得だと思います。

この「給食サービス事業」には、高齢者の方々の安否確認や、見守りにつ



芝山町社協 瓜生一貴さん、五木田充さん

ながるといふ側面もあるため、ぜひ、多くの人に利用していただきたいです。

今後についてですが、芝山町の人口は現在約8,000人。超高齢社会となっている本町では、ボランティアの方々への世代交代を考えなければいけない時期にきています。

ボランティア活動に興味のある方は、ぜひ、芝山町社協までご連絡ください。

※芝山町人口：7,808人 65歳以上人口：2,249人 高齢化率：28.8% (平成26年4月現在)



## 助け合いのまちづくりを みんなで目指す

「ニコニコひろば」で花植え

一宮町内の全5地区では、平成20、21年度に地域福祉フォーラムの取り組みを開始しました。各地区で住民たちが話し合いを重ねながら、地域のニーズを掘り起こして、できることから自分たちで解決していこうと動き出し、5地区それぞれのペースで各地区ならではの取り組みが始まっています。一宮町社会福祉協議会(以下、一宮町社協)と一宮町は、財源も含め5地区をバックアップ。地域福祉フォーラム終了後も、各地区は取り組みを継続しています。

### 全町共通の課題に取り組む

一宮町は昭和28年に一宮町と東浪見村が合併して誕生し、旧一宮町域に4地区(市街・西部・東部・北部)、旧東浪見村域に1地区(東浪見)の小地域があります。町内には小学校が2校(一宮小学校と東浪見小学校)、中学校が1校(一宮中学校)あります。一宮町社協では、平成18年度から基本域(全町域)で地域福祉フォーラムを実施し、全町の共通の課題である「防災・防犯」に取り組ま



東浪見地区社協会長 三枝貫治さん

た。平成20、21年度から始まった5地区での地域福祉フォーラムでは、共通テーマの「防災・防犯」に加え、各地区にあるニーズの発掘とその解決に取り組むことになりました。

### 東浪見地区の展開 ～小学校を中心に地区の交流～

東浪見地区社会福祉協議会(以下、東浪見地区社協)が中心となって、平成20年度から地域福祉フォーラムに取り組みました。

当時の東浪見地区社協の主な事業は、いきいきサロンや友愛訪問でしたが、地域福祉フォーラムを機会に、①地域のニーズの発掘、②ニーズに応える活動の展開、③地域活動・社協活動への参加促進に取り組むことにしました。1年ほど話し合いを重ねた後、防災・防犯では、①高齢者への救急医療情報キットの配布、②災害福祉マップづくり、③災害

時要援護者の把握、④ボランティア研修・避難訓練等を始めました。同時に、東浪見小学校とのタイアップによる取り組みも開始。地区は東浪見小学校を中心にまとまりがあり、子どもたちの見守りという地区のニーズに応え、地区社協の委員たちが動き出したのです。

そして、①子どもたちの登下校時の見守り、②学校支援ボランティア、③世代間交流、④小学校行事・授業への地域の



救急医療情報キット



小学校避難訓練

大人の協力、⑥保育園とのタイアップ、⑥地域行事での児童・保育園児の活躍と、取り組みが広がっていきます。

東浪見地区社協会長の三枝貫治さんは「取り組みを開始したら地域の要望が挙がりだし、要望に応じていくと新たな要望が見つかり、次第に小学校・保育園との交流や地域交流が深まっていきました」と言います。登下校の見守り時に先生から「マラソン大会を手伝ってもらえないだろうか」「昔遊びを教えてください」と立ち話をしながら新たな協働が始まる。地区社協はその要望に合った地域の人材につなぐ。地域の大人たちが学校に行くと、子どもたちが喜ぶ。「地域の人たちと一緒に給食を食べたい」という児童の要望にPTAや学校が応えて実現する。全町から各地区での開催となった敬老のつどいに子どもたちを呼ぶ。このような地域ぐるみの動きにより、地区の住民の交流

が深まっていったのです。

### 西部地区の展開 ～子どもも大人も 共に暮らす～

西部地区は平成21年度に地域福祉フォーラムを開始しています。その中心的役割を担っているのは、西部地区社会福祉協議会(以下、西部地区社協)です。当時の西部地区社協の主な事業は、地区全域でのいきいきサロンの開催や友愛訪問でした。地域福祉フォーラムは、防災・防犯と共に地域のニーズ発掘・地域に必要な取り組みを話し合うことから始め、平成23年度から地域の子どもも大人も一緒になって遊び・学び・実践する「ニコニコひろば」を開始。今では月1回の地区恒例の集まりとして定着しています。

発案者は、教職を定年退職後に西部地区社協委員を務める河野敏夫さん。「地区の子どもの成長を地区の大人が見守り、地元では多くの人が活躍していることを子どもたちに知ってもらおうと思いました。それが子どもたちの自信につながるでしょうし、誇りと愛着のある西部地区であれば地区を継いでくれると思い、取り組みを始めました」

開催日は毎月第3日曜日。現在約40人の園児・児童・中学生が登録し、大人は毎回20～30人ほどが集まるそうです。

ニコニコひろばでは、①自主学習や子育て支援と相談、②友だち、家族、近隣との人間関係を広める、③活躍する地元の大人たちの話を聞く、④いろいろな遊びを体験し、地域に伝わる伝統に触れる、という4つの柱に沿って活動します。カレー作り、昔の遊び、餅つき大会、講演会(地域の大人が講師)など、子どもも大人も一緒に集い、地域での暮らし・つながりを楽しんでいます。



西部地区社協委員 河野敏夫さん



餅つき大会

## 一宮町社会福祉協議会

### 孤立・閉じこもり防止に 全力を尽くす

地域福祉フォーラムに取り組んだことで、各地区の小地域活動が活発になってきています。町では、各地区の地域福祉フォーラムの活動を評価し、県の助成期間が終了した4年目以降も町として独自に活動助成することで支援し、平成25年度からは町社協の助成事業として地域福祉フォーラムの活動支援を継続しています。

今後の課題は、まず孤立防止。特に高齢の転入者で地域に溶け込まずに孤立していると思われる人への対応です。町社協では、地区社協や関係機関と一

体的に見守り移動支援などを進め、今後も孤立防止・見守り・閉じこもり防止を強化していく必要があると考えています。「小さな町でも大きな町と同じ問題が起こっています。小さな町では住民と関係者が一体となって動いていくことが重要です」と一宮町社協次長の鶴澤敏行さん。また、人口減少などにより老人会やいきいきサロンの継続が難しくなっている地区もあることから、今後住民のいきがづくりをどのように進めていくかも課題です。

民生委員でもある三枝さんは「住み



左から、鶴澤敏行さん、長谷川恵利さん、中山好弘さん、小安良輔さん

慣れた地域で暮らし続けるためには助け合いが大切です。傾聴ボランティアや認知症サポーターと協力して、高齢者やその家族が安心できる町にしていきたいです」と話されました。

一宮町では各地区の取り組みが広がっています。

※一宮町人口：12,492人 65歳以上人口：3,669人 高齢化率：29.4% (平成26年4月現在)



# 人との“話”と“和”と“輪” 3つの“わ”が地域を守る力になる

夕涼み会

人口減少や少子高齢化に伴って、地域の住人同士が顔を合わせる機会がなくなる——今、そんな問題を抱える地域は少なくなく、瑞沢地区社会福祉協議会(以下、瑞沢地区社協)にとってもそれは他人事ではありません。世代を越えた住人同士の交流を大切に、そうした課題に果敢に取り組んでいる瑞沢地区社協の活動を紹介します。

## 活気にあふれた住民が地域を盛り立てる

瑞沢地区は高齢化率が30%を超えています。瑞沢地区社協メンバーが「住民は温和で太っ腹。くよくよすることが少ない」と評するように、住民は活気にあふれています。

瑞沢地区社協の主な取り組みは、①世代間交流「夕涼み会」、②ふれあいサロンですが、これ以外にも活動は多岐にわたっています。地区社協同士の交流会をはじめ、瑞沢小学校で行われる「瑞沢っ子」学びフェスタ(学習発表会)への参加、高齢者への年賀状送付、寝たきり・一人暮らしの高齢者へお見舞品を進呈する「友愛訪問」などが挙げられます。

## いたわりの心と尊敬心を育てる場

世代間交流「夕涼み会」は毎年お盆過ぎの土曜日から日曜日に、瑞沢小学校のグラウンドで開催されます。区長会、

子ども会、青少年相談員、更生保護女性会、障害者福祉会、妙楽寺ぜんぜんご保存会など、多くの人々や団体の協力によって開かれており、平成26年度は3世代146人が集まりました。参加者の半数以上は子ども。幼児を連れてきた若いお母さんや、土曜日の開催だったのでお父さんたちの姿も見られました。

当日は地元で採れたスイカのほか、わた飴やかき氷が振舞われました。そしてメインのお楽しみは“昔遊び”です。ベーゴマ、お手玉、あやとり、コマ、ほおづき、竹馬、けん玉…。それぞれの遊びを体験してスタンプを集めると、景品がもらえる仕組みとなっています。一見簡単そうな遊びでも意外とコツのいるものが多く、いつの間にか誰もが真剣に。講師役を務める保護者や地域の方々には教わりながら、大人と子どもとの垣根を越えて、みんなで夢中になって遊びました。こうした遊びの中で、お互いの立場を思いやる気持ちや、尊敬心が育まれているのです。

“遊び”の域を超えて、300mも空に舞い上がる凧を作ったり、紙ヒコーキの日本チャンピオンを呼んで、折り方を伝授してもらうという本格的な試みも行いました。

この夕涼み会を開催したきっかけは、人口減少や核家族化によって子どもと高齢者の接点が少なくなったことでし



本格的な紙ヒコーキ作りに挑戦



夕涼み会で様々な昔遊びを体験



た。そういった状況を危惧し、防犯のために身近にどんな人が暮らしているかを知ってもらうために始めたとのこと。その結果、顔なじみになって地域で挨拶してくれる子どもが増えました。瑞沢地区社協では、今後もより多くの住民に参加してもらえるように質をさらに高めながら、活動を続けていく予定です。

## 参加者の再会の場 ふれあいサロン

ふれあいサロンは毎年1回、農閑期の2～3月に開催されており、概ね60歳以上の方なら誰でも参加することができます(参加費500円)。会場は、佐貫地区、妙楽寺地区、大上地区の区民センターを交代で使用しています。

午前中は町役場の保健師やケアマネジャーを招き、健康体操で体を動かしたり、認知症予防の講話を聞いたりして健康への意識を高めます。警察署の職員に依頼して振り込め詐欺について

話をしてもらったこともあり、様々な趣向を凝らしたプログラムを実施しています。

午後に行われるのは芸能発表会。趣味で踊りや音楽を嗜んでいる方やボランティアグループによる出し物で大いに盛り上がります。郷土芸能の鑑賞も楽しみの一つ。瑞沢地区社協の管轄内には①佐貫地区に残る「きよせ踊り」、②妙楽寺地区に残る「ぜんぜんご」、③大上地区に残る「子供囃子」という3つの郷土芸能があり、その年に会場となった地区の芸能発表を行っています。

サロンに参加した参加者の間では、「元気だった?」「病気がなかった?」「また会えて良かった!」などと楽しい声飛び交います。このように参加者の中にはサロンを「懐かしい友達に会える場」と位置づけている人もおり、サロンの回数を増やしてほしいという声も多いとか。

サロンのスタッフは民生委員5人



ふれあいサロン

## 睦沢町社会福祉協議会

# 一つひとつの事業を大切にして 地域づくりに尽力

「夕涼み会」や「ふれあいサロン」のように、充実した福祉活動を展開していくためには多くの団体との連携が欠かせないと、瑞沢地区社協のメンバーは考えています。もちろん、睦沢町社会福祉協議会(以下、睦沢町社協)とのつながりも大切なうちのひとつです。

睦沢町社協の紅谷喜亮さんは、「地区社協の事業や会議がスムーズに進むように尽力することが、町社協として大事な仕事の一つだと思っています。地区社協の主体性を大切にしながら、できれば

ないスタンスで見守ってほしいです」と話します。新たな事業をむやみに増やしていくよりは、これまで継続してきた事業を大切にしてほしいとのことで「人と人とのつながりは目に見えないため、事業の成果を問われてもうまく答えられない面もあります。ですが、地区社協でこつこつと継続してきた一つひとつの事業が地域の楽しみになって、さらには地域のコミュニティ作りにつながると嬉しいですね」と紅谷さん。



左から、睦沢町社協の紅谷喜亮さん、瑞沢地区社協の会長 佐藤勝善さん、理事 武井克嘉さん

地区社協と町社協との連携によって、睦沢町の地域福祉活動はますます広がっていきます。

※睦沢町人口：7,392人 65歳以上人口：2,522人 高齢化率：34.1% (平成26年4月現在)



## 同じ地域で暮らす仲間だから みんながつながり、笑い合える関係に

参加者が心待ちにしている「ほっとパーティー」

目の前に太平洋が広がる勝浦市保健福祉センターを会場に、平成26年度も勝浦市ボランティア連絡協議会(以下、勝浦市ボラ連)主催の「ほっとパーティー」が開かれました。降りしきる雨にも負けず、パーティーを心待ちにしていた市内福祉施設の招待者が多数来場し、パーティーは大いに盛り上がりました。今回は自分たちの特技・特色を活かした勝浦市ボラ連の活動を紹介します。

### 誰もが“ほっ”とできる 空間を目指して

「幸せなら手をたたこう〜」。歌が始まると参加者の顔にパッと花が開き、歌声に合わせて参加者が隣の人と手を叩き合います。

「ほっとパーティー」は市内にある福



プレゼント交換

祉施設の方々を招待し、同じ地域で暮らす仲間同士としてふれあい、楽しく交流することが目的です。平成13年の第1回は障害者施設や特別養護老人ホームの協力を得て、また施設職員や近隣の市町村のボランティアの応援もあり100人程度の「ふれあいパーティー」として実施しました。その後も「ほっとパーティー海の見える喫茶店」として毎年開催されています。

今年招待されたのは、勝浦裕和園、樹の実の郷かつうら、総野園、みずほ学園の入所者と職員の皆さん計38人。勝浦市の猿田寿男市長も毎年このパーティーを

楽しみに参加しているとのこと。

### ボランティアの熱意が 参加者を笑顔に変える

軽快なリズムに乗って「青い山脈」を合唱した後は、踊りの会「なのはな」のメンバーが優雅な舞踊を披露します。なのはな会長の篠原一栄さんは満90歳。踊りは50年以上続けているとのこと、市のボランティアなどを経験してきた篠原さんの生き方は他の80代のメンバーのお手本にもなっています。

パーティーでは、勝浦市ボラ連「ほっとパーティー」実行委員会をはじめ、会場の設置や送迎等を担当するボランティアグループ「トトロの会」、「なのはな」、「ことぶき」のほか、個人ボランティア、勝浦市社会福祉協議会(以下、勝浦市社協)を含めた総勢23人のスタッフの力が集結します。



全員参加の炭坑節は大盛り上がり



ゆうゆう広場の昼食準備風景

「ボランティアの存在なくしてこのパーティーは成り立ちません。準備は大変ですが、プレゼント一つ用意するのも手にした方の笑顔を想像したりして楽しいですよ」と勝浦市社協の御子神陽子さん。

プレゼント交換では、手にしたプレゼントを宝物のように持ち帰る参加者もいれば、当たった歯ブラシセットを「総野園に寄付する!」と言う入所者もいて大盛り上がり。

パーティーに参加していた保健師の鈴木ゆかりさんは「パーティーが楽しくて来年も来たい!」と思い、それを目標に1年間健康維持に努める、その気持ちが大切です」と、ほっとパーティーの意義を話してくれました。

全員で「炭坑節」を躍って賑やかにパーティーは締めくくられました。

### ボラ連による多彩な活動

勝浦市ボラ連では、このほかにもボランティアセンターの主催する行事へ積極的に協力しており、また、ボランティア同士の交流も図っています。

地域の福祉施設との交流にも積極的

で、例えば勝浦裕和園の納涼会では舞踊の協力や車いすの方などのお手伝いをしたり、みずほ学園の「みずほ祭り」では、舞踊やフォークダンスを披露して会場を盛り上げたりもしています。

### 同じ地域で暮らす仲間を 支えたい

勝浦市ボラ連実行委員長の高橋行雄さんは、奥様の看病をきっかけにボランティアに関心を持ったそうです。平成8年に勝浦市社協にヘルパー登録をしてから18年。「多くの方々にボランティアに参加してほしいと思います。

同じ地域で暮らす仲間として、私も死ぬまで『皆さんのために』という気持ちを貫きたい」という熱い気持ちの持ち主です。

パーティーの司会として元気いっぱいみんなをリードしていた石川澄江さんは、「とにかく楽しく、みんなが笑顔になれるような活動をいつも考えています。ほっとパー

ティーでは参加者に事故のない、安全で楽しいパーティーにしようと思ひなでアイデアを出し合っています。参加者から『楽しかったね』と言ってもらえることが活動のエネルギーになります」とのこと。

ボランティアを始めて12年という「トトロの会」男性メンバーは、退職後、人のためになることがしたいと思いボランティアに参加しているとのこと。「自分が楽しくなかったら続かないよ。ここでの活動が続いているということはそういうこと」と笑顔で話してくれました。



夢ぼけっと交流サロン

## 勝浦市社会福祉協議会・ボランティアセンター

### ボランティアの協力による 福祉のまちづくり

勝浦市ボランティアセンターでは、ボランティア入門講座から災害ボランティア講座、傾聴ボランティアの各講座を開催しているほか、ボランティアの情報交換ができるボランティア交流サロンを開催しています。

また、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりの場を提供する「ゆうゆう広場」は年6回開催しており、毎回ボランティアが約60名分の昼食を準備。旬の食材を使い工夫を凝らした献立を考えます。歌や踊り、俳句を始め、はり絵や茶の湯

など様々なイベントが楽しめます。

おもちゃ図書館「夢ぼけっと」は乳幼児から小学校低学年までの親子が利用できます。市内にある国際武道大学で教職課程を取っている学生が手伝いに来てくれることもあり、子どもたちは大きいお兄さんお姉さんがいて大喜び。保護者同士の交流の場としての広がりも見せています。



勝浦市ボラ連と勝浦市社協の皆さん。前列中央が猿田寿男市長、後列左から2人目が石川澄江さん、5人目が高橋行雄さん、後列右が御子神陽子さん

勝浦市社協では、これからもボランティア活動を通して勝浦市民が協力し合い、支え合える福祉のまちづくりを目指していきます。

※勝浦市人口：19,711人 65歳以上人口：7,216人 高齢化率：36.6% (平成26年4月現在)



# 人と人との「つながり」や「ふれあい」 それが活動の要となる

高齢者ふれあい会食会。曲に合わせて楽しく体操

いすみ市の太東地区社会福祉協議会（以下、太東地区社協）では、人と人とのつながりを大切にしながら活動を進めています。高齢者同士の交流、そして異世代交流を積極的に行うことで、地域の住民同士が見守り合い、一緒に笑いあえる関係を築き上げていく——そんな取り組みを紹介します。

## 高齢者や子どもたちを対象に活動を推進

いすみ市は平成17年に旧夷隅町、旧大原町、旧岬町の3町が合併して誕生。太東地区は旧岬町に位置しており、人口は4,640人です（平成26年7月1日現在）。

太東地区社協のメンバーは自治会長、民生委員・児童委員、青少年相談員、老人クラブ、ボランティア等で構成されており、様々な立場のメンバーが協力し合いながら、小・中学校の子どもたちや高齢者を対象として着実に活動



白熱した豆運びゲーム

を推進しています。

## 世代を越えたふれあいの場「高齢者ふれあい会食会」

毎年恒例の「高齢者ふれあい会食会」は、「高齢者」と銘打ってはいるものの、異世代交流の場ともなっています。太東地区社協が設立した平成10年4月からスタートし、これまで25回以上も続いてきている事業です。継続の秘訣は「面白いから！」とのこと。平成26年度は11月11日に岬ふれあい会館で開催。集まったのは70歳以上の住民60人、太東小学校3年生34人、ボランティア団体、各サークルのメンバーです。

会食会は、児童たちが日頃の練習の成果を発揮する発表の場ともなっています。歌や楽器、劇に縄跳びなど、様々な発表が行われるたびに会場が拍手に包まれました。紙人形劇で戦時中の物語が語られると、思わず涙ぐむ参加者もあり、皆真剣に児童たちの発表に見入っている姿が印象的でした。

ボランティアグループによるレクリエーションでは、参加者全員が「きよしのズンドコ節」に合わせた体操で全身をほぐした後、豆運びゲームで交流を深めました。豆運びゲームは、小さい豆を箸で隣の人の皿に移し、グループごとに速さを競うもの。どこか緊張気味だった子どもたちも、皿から転がり落ちてしまった豆を見て、高齢者と顔を見合わせて笑い合っていました。

高齢者が箸の持ち方を直してあげたり、豆の種類を教えてあげたりする光景も見られました。

昼食時に振る舞われたお弁当には、つやつやのご飯やほくほくのサツマイモが。これは、福祉教育による活動の中で地区社協メンバーが小学生・中学生とともに収穫したもの。美味しいお弁当に参加者の話も弾みます。

児童が学校に戻った後の午後の部では、7つのサークルが舞踊やフラダンスを披露するミニ芸芸会。老人クラブ会長から誘われて初めて参加したという男性は、「こんなに楽しいなら来年も



児童の発表を見て楽しむ参加者

また参加したいな」と笑顔を見せていました。

## 小学校、中学校、高校と連携して福祉教育活動を推進

太東地区社協は平成24年度から3年間、千葉県社協から「福祉教育推進指定団体」に指定され、同じく指定校となった近隣の長者小学校、岬中学校、岬高校と協力し合い、さまざまな活動を行ってきました。

指定2年目からは、地区社協役員の指導の下、太東小学校5年生と岬中学校2年生が稲づくり体験教室に参加。田んぼに入るのを戸惑いがちだった子どもたちも、実際に田植えを経験すると「もっと植えたい!」と目を輝かせたとのこと。収穫したお米は岬高校や太東小学校にも届けられ、調理の授業で使ってもらったほか、一部をもち米に替えて市社協のデイサービスや児童

館にも提供しています。

「花いっぱい活動」にも取り組み、岬中学校の生徒と地区社協役員で植えた花を児童館や市役所、高齢者福祉施設などに配り、地域の美化活動になればと精力的に活動しました。

指定3年目から始めた野菜づくり体験教室では、岬高校園芸科からナス、ピーマン、ミニトマト、カボチャの苗を買い、それらと併せて地区社協役員



稲づくりや花植えなど、子どもたちと協力して様々な活動を行いました

が提供したサツマイモをみんなで畑に植え、10月に収穫を行いました。

自然とふれあいながら活動をとに進めることで、地区社協メンバーと子どもたちとの仲も大いに深まりました。

## つながりを大切に 日々活動を進めていく

地区社協会長の高地和生さんは、これまでの取り組みに手ごたえを感じています。「様々な活動の中で顔見知りの人が増えていくと、地域の防犯にもつながるんです。福祉教育については平成26年度で指定が終了しますが、折角これまで関わることのなかった学校や子どもたちとの関わりができたので、今後も可能な限り活動を続けていきたいですね」とのことです。

活動の中から生まれる人と人とのつながりを大切に、一步一步着実に活動を推進している太東地区社協。そのふれあいの輪は、今後も確実に広がっていくことでしょう。



## いすみ市社会福祉協議会

# 市社協と地区社協が連携して地域が抱える課題を解決する

いすみ市社会福祉協議会（以下、いすみ市社協）では、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりの実現を目指しています。いすみ市の高齢化率は35%を超え、3人に1人が65歳以上。一人暮らしの高齢者もしくは高齢者だけの世帯が増えています。さらに核家族化の進行、近隣とのつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境は大きく変化しています。

こんな現状だからこそ住民の助け合いが欠かせないと、いすみ市社協主催の磯野孝夫さんは考えます。「まずは住民

が気軽に立ち寄り、多彩なプログラムやお喋りが楽しめるサロン事業を展開したいですね。誰もがほっとできる、そこを訪れたら元気になって帰ってもらえるような“寄り合い所”的な空間作りを提供したいです」とのこと。

また、市内に12ある各地区社協の活発な活動をバックアップするのも市社協の重要な役割であり、「交通の不便、害獣問題、新しく転入された方と古くからいる住民とのトラブルなど、



太東地区社協のメンバー（一列目の左から3人目が高地和生さん）と、いすみ市社協の磯野孝夫さん（最後列右）

地域が抱える問題はさまざまです。市社協と地区社協が連携し合い、問題を一つ一つ解決していきたいです」と意気込みを語ってくれました。

※いすみ市人口：40,809人 65歳以上人口：14,376人 高齢化率：35.2%（平成26年4月現在）

# “ここでずっと暮らしたい” 誰もがそう思えるまちづくりを目指して



「高齢者ふれあいの集い」を毎年心待ちにしている参加者も

古い町並みや伝統を守りながら、住民一人ひとりを大切にしたい地域活動を展開しているのが館山市社会福祉協議会長須賀支部（以下、長須賀支部）。高齢化や人口減少にも負けない長須賀支部の取り組みと、地域の女性グループが展開するサロン活動を紹介します。

## 商業の街として 発展を遂げて

館山市は房総半島の南端に位置し、かつては南房総一の商都として栄えていました。市内は15地区に分けて社協支部を結成。長須賀支部のある長須賀地区は総世帯数が970世帯で、8つの町内会から構成されています。大正から昭和にかけて賑わった当時の商家や蔵の一部など、古い町並みの面影が今なお残り、歴史的価値として注目を集めています。

長須賀地区の中心地は比較的新しい店が多く、飛び地には古くから住んでいる方たちが集まっているという特徴があります。このため長須賀支部では、飛び地を視野に入れたきめ細やかな福祉活動を進めています。



長須賀支部長の石井久治さん

かな福祉活動を進めています。

## 懐かしの顔に会える 高齢者ふれあいの集い

長須賀支部の活動は、米寿を過ぎても地域のために精力的な活動を続ける長須賀支部長の石井久治さんのほか、6人の民生委員と8人の保健推進委員が中心となって活動を展開しています。

長須賀支部の主な活動としては「高齢者ふれあいの集い」と「友愛訪問」の2つが挙げられます。

高齢者を招待して、昼食を食べながら交流を深める年1回の「高齢者ふれあいの集い」は毎年11月に開催。大人気のこの集いには毎年90人近くの高齢者が集まり、会場は満杯になります。甘酒で乾杯の後は食事と歓談。普段なかなか会えない者同士が徐々に顔を合わせ、会場のあちこちでおしゃべりの花が咲きます。

参加者からは好評を得ているこの集いですが、住民の中には参加を希望し



「友愛訪問」で持っていく手土産の準備風景

ても「会場が遠くて行けない」という人がいます。「ここに飛び地の問題があります。会場まで足がないという人にどう参加してもらうかが今後の課題です」と石井さん。



歴史的建造物を未来に残していくと旧小谷油店の一階を改修。プリンセスの活動拠点に



プリンセスの活動で作成したロウソク



プリンセスは「日本に新しいまちづくりの風を起す活動」として認められ、表彰されました

## 喜びと安心を届ける 友愛訪問

「友愛訪問」は毎年12月に実施しています。訪問の対象は70歳以上のひとり暮らし高齢者と寝たきりの高齢者です。12月に訪問する理由は「お正月に食べるお餅を支部から地域の高齢者に届けたい」という気持ちからです。平成26年度は166軒を訪問。民生委員と保健推進員を主とする女性陣がお茶葉とお餅を袋詰めし、それを可愛くリボンで結びます。心を込めた手紙を添えて、長須賀支部のメンバーと町内会長が一軒一軒歩いて届けます。

毎年行っているため、楽しみにしている高齢者がとても多いとのこと。「自分は孤独じゃない」と実感してもらえ、喜ばれているそうです。もちろん、訪問することだけが目的ではなく、安否等の確認も兼ねており、手渡しの際にちょっとしたお喋りをして一緒に楽しく過ごしながら、相手に何か変わった様子がないか、目配りも忘れません。

「このまちですっと暮らしたい」と思ってもらえる地域を目指して、これらの活動を続けていきたいと石井さんは話します。

## 支部と協力した女性グループの サロン活動

長須賀支部が支援しているサロン活動が飛び地において展開されています。その名も「ふれあいサロンプリンセス（以下、プリンセス）」。活動の中心は70歳以上の女性で、平成23年12月に発足し、老後も健康であることを活動の目標にしています。会員は増え続け、平成26年12月現在で28人。3分の1が生まれも育ちも長須賀の人。90代の会員も元気に活動しています。

プリンセスの活動は多彩。市の出前講座を活用し、健康、防災、振り込め

詐欺などの身近な問題を学んだり、会員が講師となってロウソク工芸や編物、着付けや洋裁などを習ったり。こうした活動は月1回ほどで、その他の日はいつでも自由にお茶を飲みに来られる憩いの場となっています。

もともとは、青年館などを借りて活動を行っていたプリンセス。発足から2年後、油屋だった古い商家の一階を千葉大学の大学院生と協働して改修し、常設のサロンを作りました。「お年寄りが引きこもりにならないよう、自由に集まれる場所が作りたかったの」と、プリンセスの会長であり、商家のオーナーでもある小谷恭子さん。多くの学びが得られるだけでなく、自由さも兼ね備えているのがプリンセスの魅力です。

歴史ある長須賀支部は、「このまちですっと暮らしたい」と思っている住民を様々な活動を通じて支え続けていきます。

## 館山市「地域おこし協力隊事業」と「長須賀まちなか再生協議会」が連携

# 多くの人・団体の連携が 地域再生の力になっていく

都市部の人材を積極的に誘致し、定住・定着によって地域力の維持と強化を図っていくことを目的に、館山市では「地域おこし協力隊事業」を推進しています。千葉大学大学院出身の岸田一輝さんは、大学院のプロジェクトとして在学中のみならず、卒業後も長須賀のまちづくりに携わってきました。その功績が認められて平成25年度に「地域おこし協力隊」として委嘱を受け、現在は町内会と商工会を中心に組織された「長須賀まちなか再生協議会」と連携して「まちなか再生」に取り組んでいます。

地域再生のカギは「道楽」だと岸田さんは言います。誤解のないように説明すれば、地域再生に必要なことは、①自分の楽しみのためにやる、②無理にみんなで協働してやらない、③お金や時間がない時は、そういう時にしかできないことをやる、ということだそうです。「つまり“道楽”とは、まちを自分が気持ちのいい空間に変えるということです。この地に住んでいる人々の生き方がそのヒントになりました」とのこと。

大正期に建てられた古商家の旧小谷油



石井久治さんとプリンセスのメンバー（中央が小谷恭子さん）と岸田一輝さん（右端）

商店を改修して、地区の憩いの場「プリンセスサロン」に生まれ変わらせたり、長須賀の町並みに残る石蔵や鉄骨作りの倉庫をギャラリーにして県無形文化財「唐棧織」を展示し、長須賀の地で受け継がれている伝統を広めたり——。今後の活動にも期待が寄せられています。

※館山市人口：48,937人 65歳以上人口：16,873人 高齢化率：34.5%（平成26年4月現在）

# 話し合いから生まれた 地域に根ざした取り組み



左から、吉野地区社協 福祉推進員 石井春江さん、会長 大森菊雄さん、副会長 岡村文子さん（富津市役所のオブジェ「Fの未来」前にて）

富津市の中部に位置する吉野地区社会福祉協議会（以下、吉野地区社協）は、「地域福祉フォーラム」の取り組みの中でアンケート調査を行い、地域のニーズや課題を探り、議論を重ね、その話し合いの中から「ふれあいサロン」を始めとするさまざまな事業をスタートさせてきました。議論から実践へ、「地域福祉フォーラム」を具体的な取り組み・活動に結実させた富津市の吉野地区社協を紹介します。

## 吉野地区社協の取り組み

吉野地区には現在、3,753人の人々が暮らしています。しかし、その内の1,151人が65歳以上であり、高齢化率は30.67%となっています。（平成26年4月現在）

年々、住民の高齢化が進む中で吉野地区社協は、年5回の一人暮らし高齢者に対する「給食サービス」や、毎年6月の「高齢者とのバス旅行」などを実施しています。また、地区社協だより「ふくしよしの」を年2～3回発行しています。そして9月には、吉野保育所、吉野小学校、大貫中学校の吹奏楽部など、地元の方々の協力による異世代交流イベント「ふれあいの集い」を開催するなど、地区社協としての活動を精力的に展開しています。

## 地域福祉フォーラムから生まれた ふれあいサロン「よしの」

吉野地区社協が現在、最も力を注いでいる事業が、月1回、第3月曜日に

開催している、ふれあいサロン「よしの」です。

地域福祉フォーラムの取り組みの中でアンケート調査を行い、その結果から生まれたこの事業は、平成25年4月に初回を開催。以降、回を重ねるごとに参加者もスタッフも増え続けています。

活動内容は、お茶を飲みながらのおしゃべり、健康体操、ゲームなど様々。高齢者が無理なく楽しめて、なおかつスタッフも一緒に楽しめる内容となっています。

さらに、お花見や「望年会」と称する忘年会、バスを利用しての小旅行など、様々なイベントも開催。これまで



会議のようす



運動会（玉入れ）

に一番盛り上がったイベントは「運動会」で、参加者は皆、童心に返って熱中しました。あるスタッフは、「皆さんがあまりにも頑張るので、見ていてハラハラドキドキでした」と楽しく振り返っていました。

ふれあいサロン「よしの」の運営で最も心がけているのは、参加者の安全。けがや病気、行き帰りの事故などには、常に気を配っているそうです。

今後は、防災・避難訓練などを計画しているほか、健康面を重視した内容の充実を図りたいとのこと。

## 富津市社協と協働で 買い物支援を実現

アンケート調査の結果、ふれあいサロンと同じくらい要望が多かったのが、高齢者のための買い物支援です。しか

し、車の手配や保険など、吉野地区社協のみでは解決し難い問題が数多くありました。

そこで、富津市社協に相談を持ちかけたところ、平成26年度の地域福祉事業に、「買い物支援事業」が新たに加わることになりました。

地区社協のニーズに市社協が応える形となった今回の「買い物支援事業」は、地区社協と市社協の連携・協働により、住民により質の高い福祉サービスを提供できるという、好事例となったのではないのでしょうか。

福祉サービス向上のため、様々な取り組みをしている吉野地区社協ですが、事業の参加者やスタッフに男性が少ないことが現在の悩みとのこと。今後、男性を含めてもっともっと輪を広げていきたいとのこと。



運動会（ボール送り）



花見会（鋸南町 佐久間ダムにて）



望年会（新しい年に希望を託す会）

## 富津市社会福祉協議会

# 「買い物支援事業」など 地域のニーズに即した新規事業を展開中

富津市社会福祉協議会（以下、富津市社協）は、少子・高齢化が進む中、11の地区社協と密に連携しながら、地域福祉や共同募金などの事業はもちろん、多種多様な福祉事業を展開しています。

業者に依頼するほどではない、「換気扇のフードが取れた」「電球の交換をして欲しい」などといった依頼に、富津市社協の職員が直接赴いて解決する「ちょっと困ったお助け隊」などがその一例です。相談事業に関しては、「法律相談」「子育てなんでも相談」「シルバー相談」「福祉相談なんでも窓口」の計4つがあり、ワンストップでの解決を目指しています。地区社協の財源確保を目的とした「一元玉募金事業」も、富津市社協ならではの事業です。

平成26年度からの新規事業としては、

吉野地区社協からも強い要望があった「買い物支援事業」を7～9月の間にスタートさせます。地域のニーズに応えた新規事業なので、きっと喜んでいただくと考えています。

また、「福祉教育」に関してですが、中学生に災害対策意識を高めてもらうことを目的に、8月の夏休みに東日本大震災の被災地での研修を予定しています。

そして、富津市からの委託事業として、「大佐和地区地域包括支援センター」の運営を4月から始めました。地域包括支援センターは、地域住民の生活や健康のために必要な援助や支援を包括的に担う中核機関という位置づけであり、責任の重さと同時にやりがいも感じています。

平成26年度の目玉としては、「富津市社会福祉協議会 利用の手引き」を発



富津市社協  
石井 聡さん

行し全戸に配布します。これまで、富津市社協が富津市役所内にあるという理由もあり、富津市社協で行っている事業と、富津市で行っている事業を、市民の方々が混同してしまうことが多々ありました。しかし、この「利用の手引き」を読んでもいただければ、富津市社協の事業内容や利用の仕方が、具体的にわかっていただけたと思います。

今後は広報活動にも力を入れ、富津市社協の存在をさらにアピールすると共に、「地域福祉フォーラム」をさらに広めたいと考えています。

※富津市人口：47,411人 65歳以上人口：15,322人 高齢化率：32.3%（平成26年4月現在）

# 災害にも強い地域をつくろう

## ～男女共同参画の視点から見た災害時要援護者への対応～



千葉県社会福祉協議会は、平成26年11月24日(月・祝)、千葉県男女共同参画センターとの共催で、千葉県経営者会館(千葉市中央区千葉港)を会場に、「第40回県民福祉セミナー」を開催しました。

節目の回を迎えた平成26年度のテーマは、「災害にも強い地域を作ろう～男女共同参画の視点から見た災害時要援護者への対応～」です。

大規模災害時、自分だけで避難するのが困難な高齢者や障がい者、子ども、妊婦、言葉の通じない外国人たちをどう援護していくのか——2名の講師による講演と、シンポジウムを通して多くの問題提起が行われ、そして解決へ向けた様々なヒントも示されました。

当日の参加者は164人。皆、終日貴重な話に耳を傾けていました。爽りの多かった当日の様子を一部ご紹介します。



講演 I

### 災害時要援護者支援の視点

佛教大学 福祉教育開発センター専任講師 後藤至功氏

冒頭、津波や震災による「直接死」を免れても、過酷な避難所や仮設住宅での生活が原因で「震災関連死」に陥る危険性があり、この「震災関連死」を少しでも減らす必要性について問題提起されました。特に避難所や

仮設住宅で増えていくのはアルコール依存症、うつ、認知症、がん等であるとのことでした。

災害時要援護者を守ることを考えた時に忘れてはならないのが「3・3・3の法則」だと後藤氏は説きます。

つまり「3分で基本的な身の安全を確保し、30分以内に自治会や町内会レベルで安全確認をする。そして3時間以内に救出救助を行う」ことが大事であり、常に時間を意識しながら救援活動を展開する必要があるということです。さらに、災害が起きて3日間は行政の支援もまだ行き届かないため、行政に頼らない住民同士の支え合いが大事であるとも述べられました。

また、避難所三種の神器として挙げられたのがレイアウト、男女更衣室、情報掲示板の3つです。居住スペース内に通路を作って体の弱い人がトイレに行きやすいよう配慮したり、着替えや授乳などに困りがちな女性の視点を取り入れて避難所設営を行うことの必要性を説き、一目見て分かるように文字で情報を伝えることで、避難者のトラブル軽減につながることも

話されました。

運営術としては、避難者の人数把握を目的にした名簿作りについて紹介がありました。「混乱を避けるために名簿は地区単位で作成し、避難所では自治会ごとに固まっていたり、最近の避難所は治安が悪くなっているため、組織とルールをしっかり決めないと無法地帯になります。避難所運営協議会、運営委員会を立ち上げたり、総務班や情報広報班などの役割をそれぞれが担う。できることはみんなでやる。このことをぜひ心がけてください」とのことです。

最後に衛生管理、食事管理、健康管理についても話されました。48時間以内に炊き出しができた地域を紹介し、こういった地域のまとまりが困難を乗り越えていく力になるのだと強調されました。



講演 II

### 男女共同参画の視点から考える地域防災

早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員  
減災と男女共同参画 研修推進センター協同代表 浅野幸子氏

「災害時に最も配慮すべき要援護者に着実に支援を届けるためには、男女共同参画が不可欠です。」浅野氏によると、これまでの大規模災害では、ほぼ男性だけで災害対策本部や避難所の運営を進めた結果、乳幼児や要援護の高齢者・障害者、病気の人などに対するきめ細やかな支援が難しかったとのことでした。

特に地域組織では日頃から、代表や役員を担うのがほぼ年配の男性といったところが大半であるため、避難所運営でも男性と対等な立場でリーダーに立てる女性がほとんどいませんでした。災害時には、がまんを強要する雰囲気も生まれ、ただでさえ要望を言い出しにくい上、相手が育児や介護、栄養や衛生面のことがよくわからない男性では、なおのこと女性たちは、細かい相談がしづらかったそうです。

結果、オムツのサイズが合わない・数が足りない、歯が悪く固いごはんが食べられない、ミルクが足りない、哺乳瓶があっても消毒できない、高血圧や糖尿病の人への食事が配慮されないといった状況を放置す

べ、要援護者の健康状態はすぐに悪化してしまいますし、命に係わるケースも出るでしょう。

環境面や周囲への気遣いから、要援護者を抱えながら仕方なく自宅や車中で避難していても、何の支援も得られずに追いつめられるケースは非常に多いのですが、ある地域では女性の民生委員さんの提案で、在宅避難の要援護者へ食料や生活必需品を届ける活動を行いました。これは、買い物もできない状態で孤立したらどのような悲惨な状況になるか容易に想像できる、主婦ならではの発想といえます。

一部の男性リーダーだけで無理に頑張り疲れ果て、要援護者支援もうまくいかない状態を作ってしまうのではなく、栄養・衛生・育児・介護などの知恵・経験が豊富な女性をリーダー層に多く据えて運営を行うほうがよほど効果的であること。介護している家族の代表、障害者自身やその家族の代表、外国人の代表などもリーダー層に入ってもらおうこと。その分、炊き出しや掃除は男性も担う必要があるとのことのお話でした。

# シンポジウム

## 発表1

### 災害時の避難行動要支援者の支援について

#### 避難行動要支援者名簿に関する条例を制定



千葉県総務局防災対策課 課長  
飯田正夫氏

避難行動要支援者の方々の所在をどう把握していくのか、具体的な実例を含めて説明されました。避難行動要支援者への支援形態は、①情報伝達、②安否確認、③避難支援の3つ。平常時から地域の避難行動要支援者を把握し、それぞれの方への支援方法を確認しておく重要性を強調されました。

また、千葉県避難行動要支援者名簿に関する条例の制定についての紹介もありました。千葉県では、平成20年から災害時要援護者名簿を作成しています。当時、市内全域で49,629人が避難行動要支援者に該当しましたが、名簿の提供には対象者本人の同意が必要であり、町内自治会などをはじめとする地域に提供さ

午後には、「災害にも強い地域をつくろう」をテーマに、経験豊かな3人のシンポジストより実践報告が行われました。また、午前中に講演された浅野幸子氏がコメンテーターとして参加。質疑応答の後には、コーディネーターの後藤至功氏が総括を行いました。

れていた名簿は、そのうち1,884人分だけでした。そのため、市が保有する避難行動要支援者の個人情報や、本人から拒否の意思表示がない限り平常時から自主防災組織や町内自治会等に提供できる条例を制定したとのことでした。

避難行動要支援者の範囲としては、高齢者、要介護認定者、重度の障害者、難病患者等に加えて、「手上げ方式」について紹介がありました。これは、「介護認定や要支援認定は受けていないものの、老老介護の状態にあたり、日中だけ独居老人になってしまう」というような人に、名簿に載せて欲しいと自ら手を取ってもらえば名簿に載せられると定めたものです。

名簿作成後の活動としては、その名簿情報を元に戸別訪問して災害時にどんな形で支えればいいのかを確認し、「支えあいカード」を作成する一例や、地域マップの作成についての紹介もありました。

飯田氏は最後にまとめとして、これからも地域に向いて支援の啓発をしていきたいと意気込みを語られました。

## 発表2

### 『岩手県災害福祉広域支援推進機構』及び『岩手県災害派遣福祉チーム』について

#### 災害派遣福祉チームの仕組み



岩手県災害福祉広域支援推進機構事務局 専門員  
加藤良太氏

東日本大震災では、いわゆる災害時要援護者において、慣れない避難所生活で様々な課題が発生したとのこと。地元の福祉関係者も被災者となって支援が行き届かず、1,000人規模の避難所では「福祉避難室」を設けて高齢者等に避難者がボランティアとして対応していましたが、それにも限界が生じて福祉専門職能団体が支援に入ったという経緯が述べられました。

その際、避難者の状況把握を支援組織ごとに調査したことで被災者の負担につながってしまったり、調整連絡ルートがなくて支援活動が非効率になってしまったとのこと。これらの課題や教訓を活かして、職能団体など11団体が集まって災害派遣福祉チーム、福祉の専門職チームが創設されたそうです。災害発生時の

## 発表3

### 災害時における高齢者・要援護者避難誘導訓練中志津自治会の取り組みについて

#### 住民同士の助け合いによる避難支援活動の仕組み



佐倉市中志津自治会 自治会長  
宮内勲氏

自治会として、災害時要援護者避難支援体制の確立に向けて活動を進めている旨について話がありました。

隣近所での助け合い、すなわち共助を重要視して全住民に簡単なアンケートを実施したところ、災害時の支援を46名が希望したそうです。そこでその方たちの自宅を訪問して災害時要援護者支援活動の趣旨説明を行ったうえで個人情報の共有化について同意を得て、次はその近隣の方たちを訪問して、災害時における支援をお願いしたとのことでした。

要援護者は①歩行困難、②介助で歩行可能、③自力で歩行可能な3種類に分類されました。それぞれのハン

チームの派遣決定は県が行い、細かい連絡調整は県社協で行うなど、それぞれの役割分担についても話がありました。

大規模災害時、混乱している避難所の中で相談窓口の設置・聞き取りを行って要援護者を選別し、適切な場所に行ってもらうスクリーニング(振り分け)の手配・コーディネートは災害派遣福祉チームの重要な活動の一つです。そのチーム編成、派遣基準、活動内容などが具体的に紹介されました。また、活動期間は原則、災害初期から5日程度ですが、被災地の福祉関係者等の活動によって自立できるまでは支援もしくは派遣システムをコーディネートしていくとのことでした。現在は、研修を受けた226名がチームに登録されているそうです。

今後は、県民や事業者に協力してもらえよう周知を行うことが課題とのこと。さらには、市町村の地域防災計画にチームの受け入れを位置づけてもらい、行政や他職種のチームと現場でスムーズな連携が取れる体制を平時から構築していく必要があるとも話されました。

ディキャップの差を考慮し、避難誘導に必要となる器具(リヤカーや簡易担架、車椅子等)の選択・使用方法の確認・使用上の留意点について検討を行ったうえで、災害時避難誘導訓練を実施したそうです。その際には、市や警察、消防署や学校などにも協力を要請したと語られました。

この訓練は非常に高い評価を受け、NHK首都圏ネットワークで放送されたり、総務省の行っている全国区防災まちづくり大賞の「消防科学総合センター理事長賞」を受賞したとのこと。そして全国からこれまでに13回の視察研修の要請があったそうです。

最後には、災害時に自力で適切な避難行動等の防災行動をとることが困難な方に対して隣近所・地域住民同士で互いに支え合いながら、その人の状況に応じた配慮や支援を行うことの重要性について、改めて述べられました。また、今後については、刻々と状況が変化の中で定期的にアンケートを取り、見守り活動を行っていくなど、地域活動を盛り上げていけるよう取り組みを継続していきたいと展望が述べられました。



コメンテーター

早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員  
減災と男女共同参画 研修推進センター協同代表  
浅野幸子氏

性別も含めてみんなが多様で、その多様性を前提に  
いかに被災者支援を充実させていくかが重要だと述べ  
られました。また「スフィア・プロジェクト」という人  
道支援の国際基準となっている支援者向けマニュアル  
についても説明がありました。どんな分野の支援を行  
う時にも共通する基本的な基準として、あらゆる年齢  
層の男女および多様な脆弱の人々に、支援に関する意

見を聞きましょう——ということが書かれているそう  
です。

また、「地域で助け合うことの大切さを次世代につ  
なげていただきたいと思いますが、防災は誰もが気に  
しているテーマなので非常に有効な切り口です。自治  
会・町内会の役員だけではなく、日常からいろんな人  
たちに入ってもらって自主防災組織を作っておけば、  
個人情報や世代間の軋轢など意識の違いはうまく乗り  
越えられると思います」とのメッセージも述べられま  
した。

まとめ

コーディネーター

佛光大学 福祉教育開発センター専任講師 後藤至功氏

まとめの講義の中で、一例として京都市北区紫  
野学区における活動内容が紹介されました。一人  
暮らしの高齢者400人のうち、防災講座に来たの  
はたったの5人程度でしたが、その後、地域の歌作  
りの取り組みが進められ、最終的に40名以上の  
方々が参加されるようになりました。さらにはそ  
の成功が引き金となって、盆踊りの復活、自主運  
営のカフェの開始、最終的には、CDまで出したと

のこと。「この方たちはもはや要援護者というより  
も町のスターになりました。そして、非常時に助  
け合える絆が日々の活動の中でできたのです。日  
常の様々な活動を意識して、災害時にもつなが  
るものにして下さい」とのメッセージが伝えられま  
した。

最後には「要援護者に優しい災害対策や避難所は、  
誰にとっても優しいものになっていると思います。  
男女共同参画の考え方も大切に、たゆまぬ防災  
対策活動を続けていただきたいと思います」と締め  
くくられました。



# 地域社会づくりの基盤(プラットフォーム)としての 基本・小域地域福祉フォーラムの設置状況

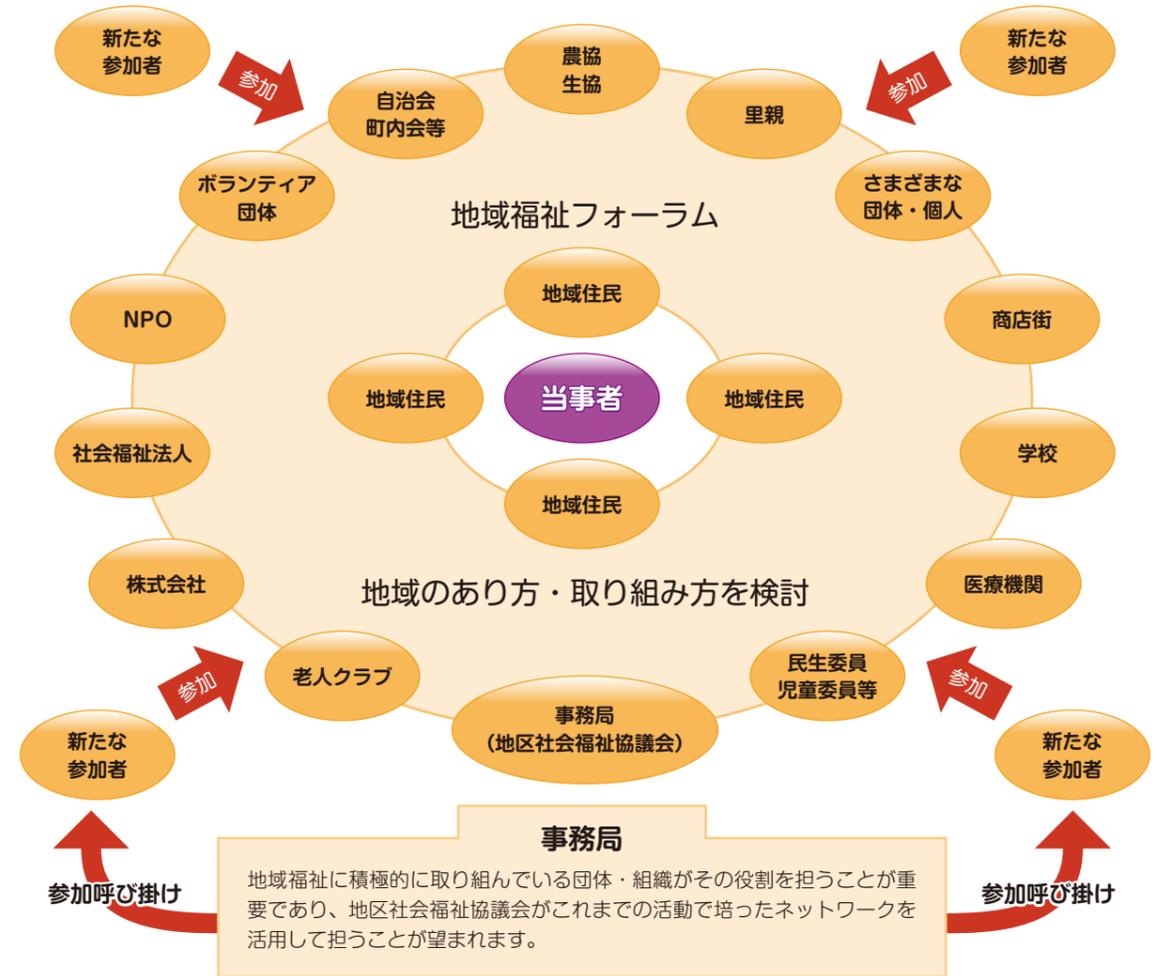
## 地域福祉フォーラムとは

地域福祉フォーラムは、平成16年3月に策定された「第一次千葉県地域福祉支援計画」で提案された「誰もが、ありのままに・その人らしく、地域で暮らすことができる『新たな地域福祉像』(地域社会づくり)」の実現を目指すため、地域のさまざまな分野の団体・個人が集い、地域の課題を考え、具体的解決に向けた取り組みです。

地域住民をはじめ、当事者、自治会・町内会、地域の社会福祉協議会、民生委員児童委員、主任児童委員、NPO、ボランティア団体(ボランティア連絡協議会)、社会福祉法人、老人クラブ、保健医療福祉分野の従事者、里親、医療機関(医師会等の医療関係団体を含む)、農協、生協、郵便局、商店街、学校、株式会社等、さまざまな地域福祉の担い手・福祉以外の分野の団体・個人が連携し、地域のさまざまな福祉課題や生活課題を明らかにしたり、その解決方法を検討したりする取り組みを通じて、地域社会のつながりを再構築し、力を合わせて協働できる「地域における推進体制」を一層充実・強化していくものです。

なお、平成22年3月に策定された「第二次千葉県地域福祉支援計画」および平成27年3月に策定された「第三次千葉県地域福祉支援計画」においても、第一次計画から継続して地域福祉フォーラムを設置促進することとしています。

## 地域福祉フォーラムのイメージ





市町村	開始年度	事務局(地区名)	活動内容													年度ごとの主な事業内容			
			高齢者支援	子育て世代支援	障害児・者支援	講演会・研修会	イベント開催	美化・防犯	文化・環境	世代間交流	広報活動	見守り活動	アンケート調査	地区活動計画策定	健康・医療		その他		
市原市	24	市原地区社協(石塚小学校区)	1	○														サロン事業・防犯パトロールの実施。防災マップの作成。	
			2	○														サロン事業・防犯パトロール・高齢者見守り支援を実施。	
	24	市原地区社協(五所小学校区)	1	○	○			○	○									地域の課題について検討し、スクールガードを開始。世代間交流として餅つき大会を実施。	
			2	○	○			○	○									前年度活動継続。	
	25	市原地区社協(八幡小学校区)	1	○	○	○												小学校登校時の見守り活動、子育てサロン活動を実施。「無事でスタオル」の掲示訓練を実施。	
	25	市原地区社協(菊間小学校区)	1	○	○	○												小学校登校時の見守り活動、高齢者・子育てサロン活動を実施。	
	22	国分寺地区社協(国分寺台小学校区)	3	○														世代間交流、茶話会を実施。	
	24	国分寺台地区社協(国分寺台東小学校区)	1																近隣の助け合いの輪を広げることを目的としてステッカーを作成し、全世帯へ配布。
			2	○															学校と連携し、災害救助訓練を実施。地域交流会を実施。
	23	三和地区社協(市西小学校区)	2	○	○														緊急時連絡カードを更新・配布。登校時あいさつ運動の実施。
			3	○	○														登校時あいさつ運動の実施。小学校事業への協力。
	23	三和支部(養老小学校区)	2	○															あいさつ運動の推進・看板の追加設置。
			3	○	○														前年度活動継続。
	23	三和地区社協(光風台小学校区)	2	○	○														迷惑駐車対策活動を実施。中学校下校時の見守り支援を実施。
			3	○	○														迷惑駐車パトロールを実施。
24	三和地区社協(海上小学校区)	1																医療・災害時緊急連絡カードを全世帯に配布。あいさつ運動看板の設置。	
		2	○															医療・災害時緊急連絡カードの更新・配布。登校時の見守り活動・小学校の環境美化活動を実施。	
25	市津地区社協(市東第二小学校区)	1	○	○														世代間交流事業として、昔遊びや野菜作りの指導を行った。	
22	ちはら台地区社協(牧園小学校区)	3	○	○														高齢者・子育て支援部会に分かれて座談会等を開催。	
24	ちはら台地区社協(ちはら台桜小学校区)	1																障がい者・直接支援部会に分かれて活動を展開。	
		2	○															敬老会を開催。	
富津市	24	吉野地区社協(吉野地区)	1	○														アンケートを実施。結果から、ふれあいサロンを開設予定。	
			2	○														ふれあいサロン活動を開始。住民懇話会やアンケート調査を実施。	
八街市	22	実住地区社協(実住地区)	3															「災害ボランティアセンターの役割と運営」をテーマに講演会を開催。	
	22	実住中央地区社協(実住中央地区)	3															防災セミナーを開催。防災マップの作成。	
	25	六区地区社協(六区地区)	1															応急手当講習会を開催。	
	25	二州地区社協(二州地区)	1															青色防犯パトロール発足に向けて準備。防犯講演会を実施。	
	25	川上地区社協(川上地区)	1															防災をテーマに、視察研修・学習会を実施。	
白井市	22	大山口小学校区地区社協(大山口小学校区)	3															夏祭りアンケートや、自治会やボランティアとの懇談会を実施。	
南房総市	22	富浦地区社協・八東地区社協(富浦地区)	3	○														認知症サポーター養成講座を実施。	
	22	岩井地区社協(岩井地区)	3	○														「認知症早期発見」をテーマに講演会を開催。	
	23	平群地区社協(平群地区)	2	○															高齢者宅を訪問してニーズを把握し、健康と地域交流をテーマに講演会・地域交流会を開催。
3			○															AED講習会・地域交流会を開催。	

市町村	開始年度	事務局(地区名)	活動内容													年度ごとの主な事業内容					
			高齢者支援	子育て世代支援	障害児・者支援	講演会・研修会	イベント開催	美化・防犯	文化・環境	世代間交流	広報活動	見守り活動	アンケート調査	地区活動計画策定	健康・医療		その他				
南房総市	23	滝田地区社協(滝田地区)	2	○															講演「腰痛の予防と改善」、敬老演芸会を実施。		
			3	○															認知症をテーマとした講演会、敬老演芸会を実施。		
	23	国府地区社協(国府地区)	2																講話「元禄地震と津波」「生活習慣予防のための日常生活」等を実施。		
			3																生活習慣病予防についての講話やマジックショーを実施。		
	22	稲都地区社協(稲都地区)	3																地域住民の交流・親睦を目的としてスポーツ大会を開催。口腔ケアについて講演会を実施。		
	22	白浜地区社協・長尾地区社協(白浜地区)	3																「ストレスのない子育てを学ぼう」をテーマに講演会を開催。		
	22	千倉地区社協(千倉地区)	3																「いのちを守る実践的な防災講座」フォーラムを開催。		
	22	南地区社協・丸地区社協(丸山地区)	3																「おたがいさまネットワークまるやま」の設立に向けて準備を進め、タウンミーティングを開催して説明も実施。		
	22	和田地区社協(和田地区)	3																	南三原地区と合同で防災講演会を開催。	
	22	北三原地区社協(北三原地区)	3	○	○															専門部会ごとに分かれ、異世代交流会等を実施。	
	22	上三原地区社協(上三原地区)	3																	地区内道路の通行注意(危険)箇所の調査を行い、マップを作成。	
	22	南三原地区社協(南三原地区)	3																	和田地区と合同で防災講演会を開催。	
	匝瑳市	23	須賀地区社協(須賀地区)	2	○	○															要援護者台帳・マップを作成。小学生と昔遊びによる交流会を実施。
				3	○	○															前年度の活動継続。要援護者台帳・マップの更新。
	香取市	22	香西地区社協(香西地区)	3	○	○															学校支援や福祉教育活動として清掃活動、調理実習を開催。認知症サポーター養成講座を実施。
22		津宮地区社協(津宮地区)	3	○	○															「安全な子供の遊び場づくり」について検討。独居高齢者を対象にイベントを実施。	
22		本宿地区社協(本宿地区)	3	○																独居高齢者を対象に体操やゲームを行う「いきいきふれあいタイム」や日帰り旅行を実施。	
22		八都小学区地区社協(八都小学区地区)	3	○																グランドゴルフにより世代間交流を計る。高齢者向けお楽しみバスハイキングを実施。	
22		八都第二小学区地区社協(八都第二小学区地区)	3	○																高齢者を招待しバスハイキングを実施。児童による独居高齢者宅への訪問活動の実施。	
22		府馬小学区地区社協(府馬小学区地区)	3	○																高齢者を招待して演芸会を開催。独居高齢者へ非常時持出袋を配布。	
芝山町	24	養田地区社協(養田地区)	1																	地域の課題について協議を行う等、次年度に向けて準備を行った。	
			2																	防災訓練として「第1回歩いて食べよう会」を実施。	
	24	総元地区地域ぐるみ福祉協議会(総元地区)	1																	「災害時一人も見逃さない運動」を展開するためにアンケート調査を実施し、結果を広報で公表。	
			2																	「災害時一人も見逃さない地域づくり」をテーマに講演会・懇談会を開催。	
24	西畑地区地域ぐるみ福祉協議会(西畑地区)	1	○																	「園児と遊ぶ芋掘り」や独居高齢者・重度障害者・ねたきり者への友愛訪問を実施。	
		2	○																	前年度活動継続。	
23	老川地区地域ぐるみ福祉協議会(老川地区)	2	○	○																高齢者と児童・園児のつどいを開催。アンケートにより地域課題や住民ニーズを把握。	
		3	○	○																高齢者と児童・園児のつどいを開催。アンケートを集計し、報告書を発行。	

# 市町村社会福祉協議会一覧

(平成27年3月31日現在)

市町村名	郵便番号	住 所	電話番号	FAX 番号
千葉市社会福祉協議会	260-0844	千葉市中央区千葉寺町 1208-2 千葉市ハーモニープラザ C 棟 3 階	043(209)8884	043(312)2442
銚子市社会福祉協議会	288-0047	銚子市若宮町 4-8 市保健福祉センター内	0479(24)8189	0479(24)8139
市川市社会福祉協議会	272-0026	市川市東大和田 1-2-10 市分庁舎 C 棟 1 階	047(320)4001	047(376)8555
船橋市社会福祉協議会	273-0005	船橋市本町 2-7-8 市福祉ビル 3 階	047(431)2653	047(431)2678
館山市社会福祉協議会	294-0045	館山市北条 402 市役所 4 号館内	0470(23)5068	0470(22)8805
木更津市社会福祉協議会	292-0834	木更津市潮見 2-9 市民総合福祉会館 1 階	0438(25)2089	0438(23)2615
松戸市社会福祉協議会	271-0094	松戸市上矢切 299-1 市総合福祉会館内	047(368)0503	047(368)0203
野田市社会福祉協議会	278-0003	野田市鶴拳 5-1 市総合福祉会館内	04(7124)3939	04(7124)8883
茂原市社会福祉協議会	297-0022	茂原市町保 13-20 市総合市民センター内	0475(23)1969	0475(23)6538
成田市社会福祉協議会	286-0017	成田市赤坂 1-3-1 市保健福祉館内	0476(27)7755	0476(27)1263
佐倉市社会福祉協議会	285-0013	佐倉市海隣寺町 87 市社会福祉センター 2 階	043(484)6197	043(486)2518
東金市社会福祉協議会	283-0005	東金市田間 421 市保健福祉センター 2 階	0475(52)5198	0475(52)8227
旭市社会福祉協議会	289-2712	旭市横根 3520 飯岡福祉センター内	0479(57)5577	0479(57)2836
習志野市社会福祉協議会	275-0025	習志野市秋津 3-4-1 市総合福祉センター内	047(452)4161	047(451)8211
柏市社会福祉協議会	277-0005	柏市柏 5-11-8 介護予防センターいきいきプラザ内	04(7163)9000	04(7163)9300
勝浦市社会福祉協議会	299-5226	勝浦市串浜 1191-1 市保健福祉センター内	0470(73)6101	0470(73)6102
市原市社会福祉協議会	290-0075	市原市南国分寺台 4-1-4	0436(24)0011	0436(22)3031
流山市社会福祉協議会	270-0157	流山市平和台 2-1-2 市ケアセンター 3 階	04(7159)4735	04(7159)4736
八千代市社会福祉協議会	276-0046	八千代市大和田新田 312-5 市福祉センター内	047(483)3021	047(486)9787
我孫子市社会福祉協議会	270-1166	我孫子市我孫子 1861	04(7184)1539	04(7184)9929
鴨川市社会福祉協議会	296-0033	鴨川市八色 887-1 市総合保健福祉会館 (ふれあいセンター)	04(7093)0606	04(7093)0623
鎌ヶ谷市社会福祉協議会	273-0195	鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷 2-6-1 市総合福祉保健センター内	047(444)2231	047(446)4545
君津市社会福祉協議会	299-1152	君津市久保 3-1-1 市保健福祉センターふれあい館 3 階	0439(57)2250	0439(54)2941
富津市社会福祉協議会	293-0006	富津市下飯野 2443 市役所内	0439(87)9611	0439(87)9610
浦安市社会福祉協議会	279-0042	浦安市東野 1-7-1 市総合福祉センター内	047(355)5271	047(355)5277
四街道市社会福祉協議会	284-0003	四街道市鹿渡無番地 市総合福祉センター内	043(422)2945	043(422)2807
袖ヶ浦市社会福祉協議会	299-0256	袖ヶ浦市飯富 1604 市社会福祉センター内	0438(63)3888	0438(63)0825
八街市社会福祉協議会	289-1192	八街市八街ほ 35-29 市総合保健福祉センター内 3 階	043(443)0748	043(443)1761
印西市社会福祉協議会	270-1325	印西市竹袋 614-9 市総合福祉センター内	0476(42)0294	0476(42)0338
白井市社会福祉協議会	270-1492	白井市復 1123 保健福祉センター 3 階	047(492)5713	047(492)3600
富里市社会福祉協議会	286-0221	富里市七栄 653-2 市福祉センター内	0476(92)2451	0476(92)2495
南房総市社会福祉協議会	295-0004	南房総市千倉町瀬戸 2705-6 ちくろ介護予防センターゆらり内	0470(44)3577	0470(44)3542
匝瑳市社会福祉協議会	289-2141	匝瑳市八日市場 793-35 市民ふれあいセンター内	0479(73)0759	0479(70)0120
香取市社会福祉協議会	287-0001	香取市佐原口 2116-1	0478(54)4410	0478(54)4797
山武市社会福祉協議会	289-1306	山武市白幡 1627 市成東老人福祉センター内	0475(82)7102	0475(82)7318
いすみ市社会福祉協議会	299-4621	いすみ市岬町東中滝 720-1 岬ふれあい会館内	0470(87)8857	0470(80)3036
大網白里市社会福祉協議会	299-3251	大網白里市大網 131-2・133 合併 1 市福祉会館内	0475(72)1995	0475(72)1996
酒々井町社会福祉協議会	285-0922	印旛郡酒々井町中央 1-28-8	043(496)6635	043(496)5245
栄町社会福祉協議会	270-1515	印旛郡栄町安食台 1-2 町役場 2 階	0476(95)1100	0476(95)3456
神崎町社会福祉協議会	289-0221	香取郡神崎町神崎本宿 96 神崎ふれあいプラザ保健福祉館内	0478(72)4031	0478(72)4540
多古町社会福祉協議会	289-2241	香取郡多古町多古 777-1	0479(76)5940	0479(70)6072
東庄町社会福祉協議会	289-0612	香取郡東庄町石出 2692-4 オーシャンプラザ内	0478(86)4714	0478(86)4188
九十九里町社会福祉協議会	283-0104	山武郡九十九里町片貝 2910 町保健福祉センター内	0475(70)3163	0475(76)8362
芝山町社会福祉協議会	289-1604	山武郡芝山町飯櫃 126-1 福祉センターやすらぎの里内	0479(78)0850	0479(78)0878
横芝光町社会福祉協議会	289-1727	山武郡横芝光町宮川 11902 町役場分室内	0479(80)3611	0479(80)3651
一宮町社会福祉協議会	299-4301	長生郡一宮町一宮 1865	0475(42)3424	0475(42)3439
陸沢町社会福祉協議会	299-4403	長生郡陸沢町上市場 921-1 むつざわ福祉交流センター内	0475(44)2514	0475(44)0080
長生村社会福祉協議会	299-4345	長生郡長生村本郷 1-77 村総合福祉センター内	0475(32)3391	0475(32)6377
白子町社会福祉協議会	299-4218	長生郡白子町関 92 町公民館内	0475(33)5746	0475(33)7470
長柄町社会福祉協議会	297-0218	長生郡長柄町桜谷 712 町福祉センター内	0475(30)7200	0475(30)7201
長南町社会福祉協議会	297-0192	長生郡長南町長南 2110 町保健センター内	0475(46)3391	0475(40)4050
大多喜町社会福祉協議会	298-0214	夷隅郡大多喜町新丁 163 老人福祉センター内	0470(82)4969	0470(82)5009
御宿町社会福祉協議会	299-5102	夷隅郡御宿町久保 1135-1 町地域福祉センター内	0470(68)6725	0470(68)6726
鋸南町社会福祉協議会	299-1902	安房郡鋸南町保田 560 町ボランティアセンター内	0470(50)1174	0470(50)1236

平成27年度

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

# 全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

## ボランティア活動保険



### 対象となるボランティア活動

◆グループの会則に則り企画、立案された活動であること  
(グループが社会福祉協議会に登録されていることが必要です。)

◆社会福祉協議会に届け出た活動であること

◆社会福祉協議会に委嘱された活動であること

※活動のための学習会または会議などを含みます。  
※自宅などとボランティア活動を行う場所との通常の経路による往復途上を含みます。(自宅以外から出発する場合は、その場所と活動場所への往復途上となります。)

### 保険金をお支払いする主な場合

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをして通院した。(ケガの補償)
- 活動に向かう途中、交通事故にあつて亡くなられた。(ケガの補償)
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になって入院した。(ケガの補償)
- 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花びんを落としてこわした。(賠償責任の補償)
- 自転車でのボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。(賠償責任の補償)

### 補償金額(保険金額)・保険料

		Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円	
	後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円	
賠償責任の補償	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
	葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円 (限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円 (限度額)	5億円 (限度額)	
年間保険料	基本タイプ	300円	450円	
	天災タイプ <sup>(※)</sup> <small>(基本タイプ+地震・噴火・津波)</small>	430円	650円	

(※)天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

## ボランティア行食用保険 (普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者(主催者〔個人〕を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

## 送迎サービス補償 (普通傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

## 福祉サービス総合補償

(普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス  
(公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業
- 地域福祉サービス
- 介護保険サービス など

● お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**  
(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
TEL: 03(3593)6824

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
受付時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



## 町に愛を。胸に羽根を。

あなたの町にも、きっといます。“赤い羽根”という支えあいの心を持った「あかいね女子」たちが。  
 じぶんの町を良くしたいというキモチで、地域で孤立する人を守ったり、障害のある方々とふれあったり、子育てのサポートをしたり。  
 あなたの町で集まった赤い羽根共同募金は、あなたの町を支えるボランティア団体などの活動資金に使われているのです。



活動紹介ムービーは、こちらから。

じぶんの町を良くするしくみ。

# 赤い羽根共同募金

www.akaihane.or.jp